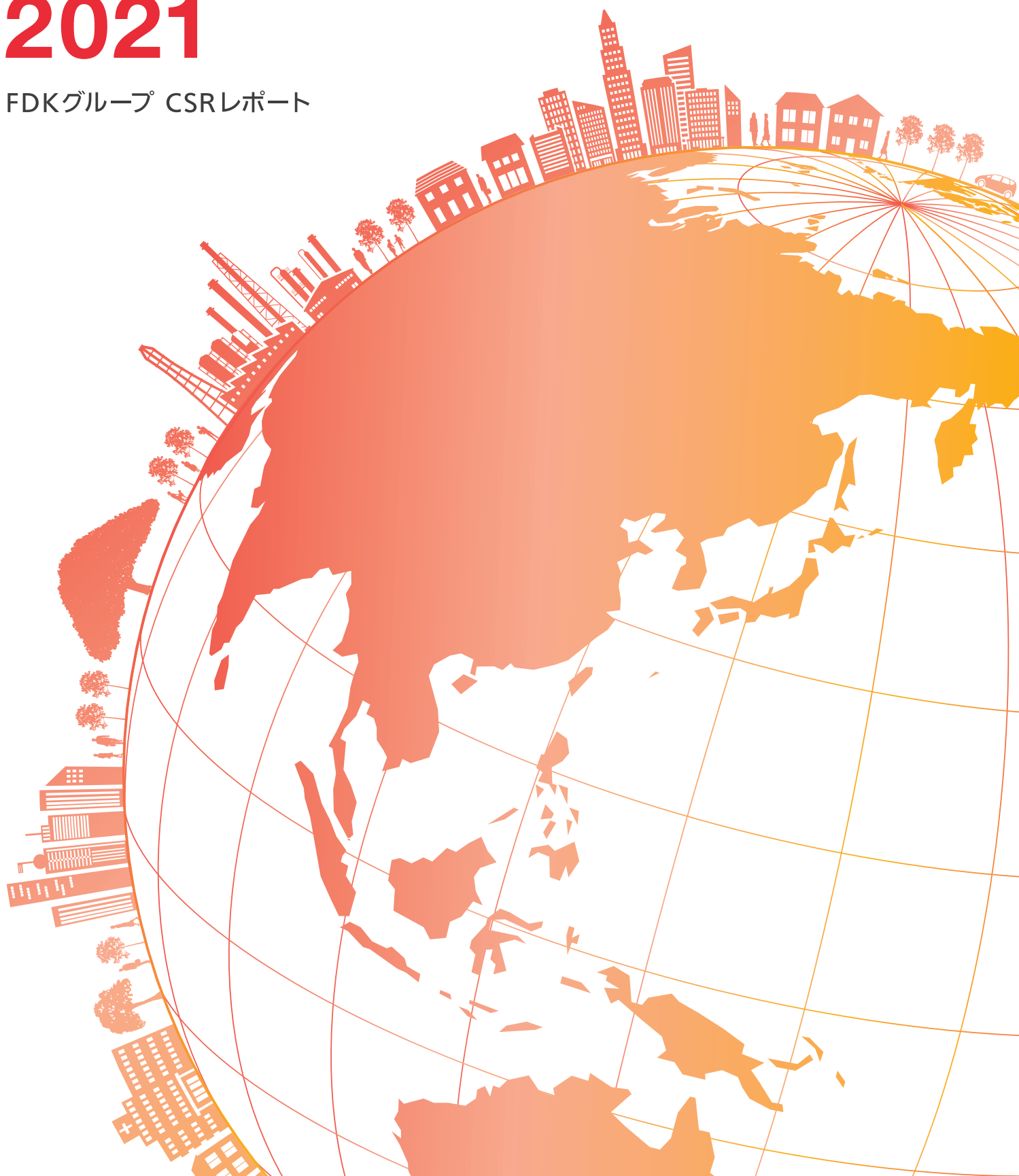


FDK

CSR Report 2021

FDKグループ CSRレポート





経営理念

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

Inspiring transformation; shaping the future and creating happiness.



FDKグループの Vision

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。



● 「FDKグループCSRレポート 2021」について

編集方針

FDKは、FDKグループのCSR基本方針にもとづく様々な活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2017年から「FDKグループCSRレポート」を発行しております。「FDKグループCSRレポート 2021」では、FDKグループの「価値創造アプローチ」とCSR基本方針にもとづく「7つの重点課題」の取り組みを中心にご報告いたします。

対象期間

2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)の活動を中心にご報告しています。(一部それ以外の期間の内容を含みます。)

対象範囲

FDKおよびFDKグループを対象としています。一部の報告は、FDK単体のものがあります。

参考にしたガイドライン

「FDKグループCSRレポート 2021」は、ISO26000 社会的責任に関する手引きや環境報告ガイドライン2012年版を参考に作成しています。

ISO26000(中核主題)のアイコン



SDGs (Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。



Contents

トップメッセージ 3

FDKグループの価値創造ストーリー

- 価値創造アプローチ 5
- 経営理念・中期経営計画 7
- あるべき姿 9
- FDKのバリューチェーン 11
- CSRマネジメント 13
- 7つの重点課題 15

マネジメント体制

- コーポレート・ガバナンスの強化 17
- 内部統制システムの構築 18
- コンプライアンスの徹底 18
- リスクマネジメント 19
- 安全衛生活動 20

お客様・お取引先様とともに

- オファリング 21
- 品質保証活動 23

社会とのかかわり

- ステークホルダーとの対話と協力 25

従業員とのかかわり

- 多様性の受容 27
- 地球と社会に貢献する人材の育成 29

環境保全活動

- 地球環境保全への対応 31

概要、グループ会社 35

お問い合わせ先

コーポレート本部 総務人事部
TEL:03-5715-7402 FAX:03-5715-7401
E-Mail:csr@fdk.co.jp

企業文化の醸成を加速させ、 企業価値の向上を推し進めてまいります。

「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」という経営理念のもと
当社グループのステークホルダーのすべての方に満足いただく
「And Game」の実現のため、従業員各自が自律的にお客様に
満足いただける努力を怠らない企業文化の醸成を加速させ
企業価値の向上を推し進めてまいります。

2021年10月
FDK株式会社 代表取締役社長
長野 良

「経営理念」の制定

当社は、2019年10月に10年後のあるべき姿として「10年の計」を制定いたしました。

そのあるべき姿の実現に向けた重点項目の一つとして「各自が自律的にお客様に満足いただける努力を怠らない企業文化の醸成」を掲げております。また、当社は2020年度は創立70周年を迎えた節目の年であり、従業員一丸となって新生FDKとして歩み出したいという思いから、経営理念を制定するとともに、2021年4月より制服を一新いたしました。

これらの取り組みを推進するにあたり、従業員全員で計画を実現し、また従業員全員が会社に誇りと愛着を持てるよう、当社グループ全従業員による投票を経て決定いたしました。

経営理念の制定にあたっては、当社グループ従業員の思いを最大限反映し、また持続性を持たせ、当社の理念としてふさわしい理念とすべく、経営陣および選抜された従業員で構成された経営理念プロジェクトを発足させ、当社の経営理念を決定いたしました。

また、新制服につきましては、「力強さ」とともに「躍動感と清潔感」を表現し、LGBTなどの多様性を尊重し、世代・男女を問わずTPOを考慮したデザインとIEC規格対応(静電気帯電防止)とし、安全性と快適性にも配慮して決定いたしました。

FDKグループ経営理念

「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」

経営理念に込めた思い

- 進化に** 固定概念や自分の殻を打ち破る
日々変化し続ける多様な世の中に柔軟に対応
- 挑戦** チャレンジすることを恐れず、一歩踏み出す勇気
を持って失敗から学び、互いに助け合い、成長を
繰り返す組織風土をつくる
- 輝く
未来と** 世界の人々の快適な日常と利便性の提供
地球と生命にやさしい環境保全の取り組み
そして私たち自身が活き活きと輝きを放つ働き方
- 笑顔の
ために** 社員、仲間、家族、大切な人たちの笑顔が絶えない
世の中になることを願って

当社は制定した経営理念のもと、社会から必要とされ信頼される企業を目指し、企業価値の向上に取り組んでまいります。

FDK企業行動指針の見直し

当社のCSR基本方針は、FDKグループで働くすべての人が積極的に実践すべき内容を示した「FDK企業行動指針」および富士通グループの一員としてのグループ理念である「FUJITSU

Way」を実践することとしています。

FDKグループ経営理念を制定するにあたり、FDK企業行動指針の見直しを行いました。

見直したFDK企業行動指針は、「経営理念」「Vision」「行動基準」「行動規範」を包括したものといたしました。

FDKグループのCSRマネジメント

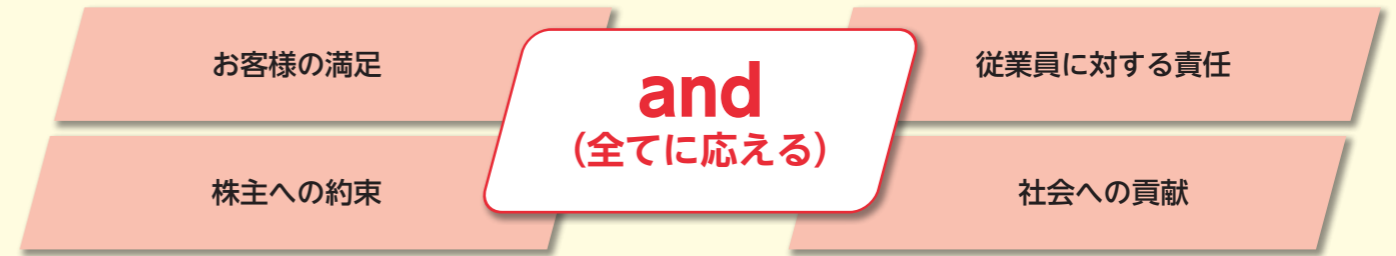
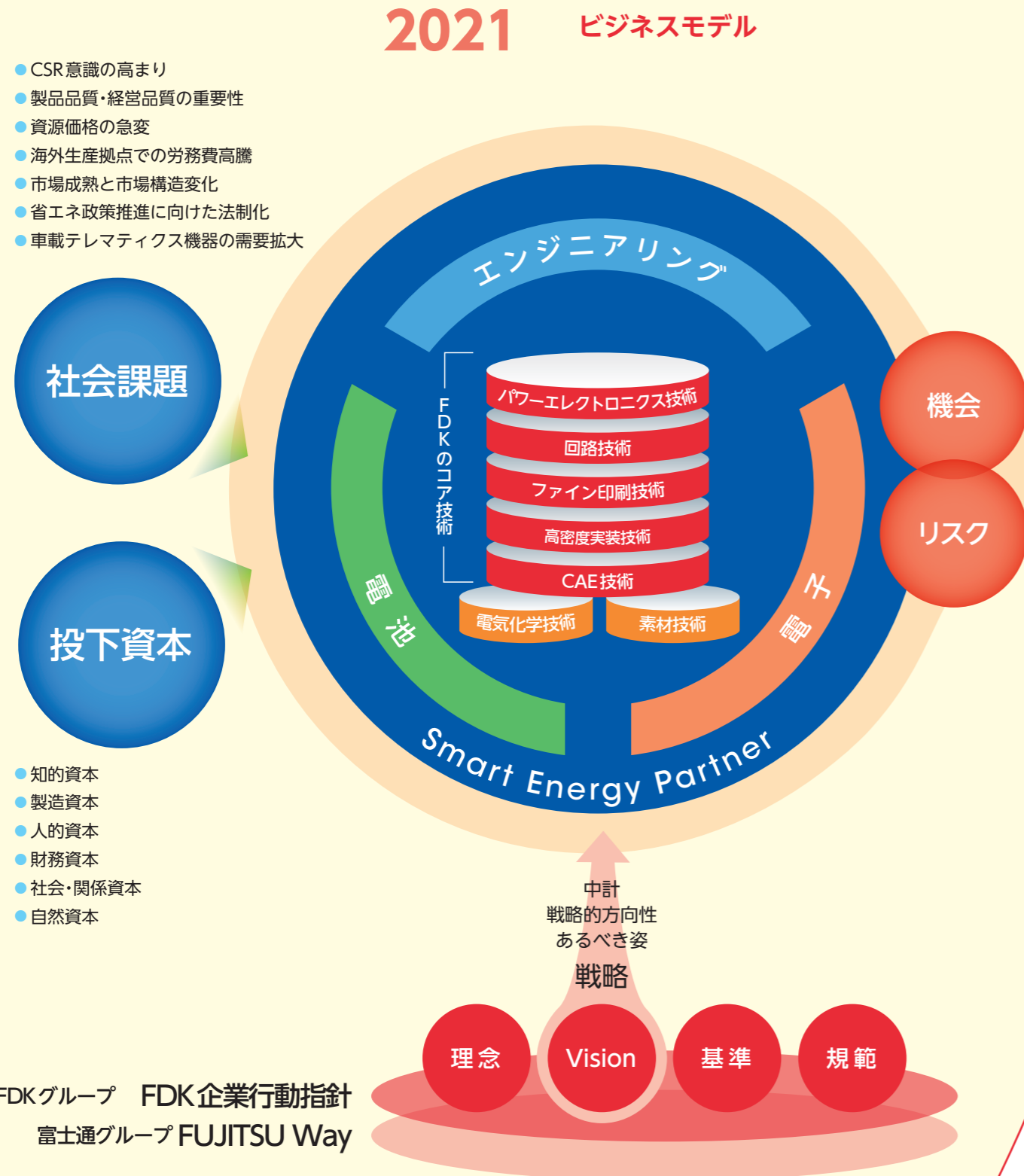
FDKグループでは、「FDKグループCSR基本方針」を制定しており、その実践にあたって重点的に取り組むCSR基本方針にもとづく重点課題を定めています。これら重点課題への取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進しています。取り組みの推進にあたっては、CSR推進委員会を設置し、CSR基本方針にもとづく重点課題進捗の定期的なレビューを行っており、重点課題に関する取り組みを進め、社会課題の解決に貢献するという当社ビジョンの実現に努めています。

コーポレート・ガバナンスに関しては、その充実が企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、コーポレート・ガバナンス・コードの原則を踏まえた経営活動を行っています。さらに、よりグローバルな視点でCSRの取り組みを進めるため、国際的なCSR規範(ISO26000および富士通グループとして加盟しているRBA)等への準拠活動を国内外の事業拠点およびサプライチェーンに展開してい

ます。また、法令遵守を確実にし、社会的な要請に対応するため全社的な組織として、「安全衛生委員会」、「リスク・コンプライアンス委員会」、「環境管理委員会」、「含有化学物質管理委員会」、「輸出管理委員会」などを設置しており、消費者課題については、「製品安全化推進委員会」を設置して、適切な品質、安全性を確保するための品質保証体制の充実を図っています。FDKグループでは、SDGs(国連の提唱する持続可能な開発目標)のうち、特に4つの目標の達成に貢献するために、SMD対応小型全固体電池、ニッケル亜鉛電池、水素/空気二次電池などの次世代電池の生産・開発を行っています。既存の製品、サービスに加えて今後の社会の発展を支えるIoT、モビリティ、社会インフラなどの市場に、これらの次世代電池を始めとする新たな製品を提供し、社会課題の解決に貢献してまいります。カーボンニュートラルへの対応としては、富士通グループの中長期環境ビジョンで2050年CO₂排出ゼロを掲げており、またRE100の目標として事業活動の電力について再生可能エネルギー比率を2030年に40%以上、2050年に100%の目標としています。FDKグループは富士通グループの一員としてこの目標に合わせて活動してまいります。本レポートを通じてFDKグループのCSR活動についてのご理解を賜れば幸いです。FDKグループのCSR取り組み推進のため、ステークホルダーの皆様から忌憚のないご評価、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

価値創造アプローチ

FDKグループは、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題に継続して取り組むことにより、グローバル企業として責任ある経営を推進し、これまでに培ってきたコア技術をもとにした電池、蓄電システム、電子製品の開発・供給、バッテリーソリューションの提供を通じて、社会課題の解決に貢献するFDKグループの価値をすべてのステークホルダーの皆様に提供してまいります。



And Game : 計画実行にあたり大切にすべき、FDKの新しい文化



経営理念・中期経営計画

経営理念設定の背景

当社は、2019年10月に10年後のあるべき姿として「10年の計」を制定いたしました。そのあるべき姿の実現に向けた重点項目の一つとして「各自が自律的にお客様に満足いただける努力を怠らない企業文化の醸成」を掲げております。
また、当社は2020年度は創立70周年を迎えた節目の年であり、従業員一丸となって新生FDKとして歩み出したいという思いから、2021年1月に経営理念を制定いたしました。

経営理念

「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」
Inspiring transformation; shaping the future and creating happiness.」

FDK 企業行動指針

経営理念 進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

VISION FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します

- 進化
- 固定概念や自分の殻を打ち破ります
 - 日々変化し続ける多様な世の中に対応します

- 挑戦
- チャレンジすることを恐れず、一歩踏み出す勇気を持ちます
 - 失敗から学び、互いに助け合い、成長を繰り返す組織風土をつくります

行動基準

- 未来
- 世界の人々に快適な日常と利便性を提供します
 - 地球と生命にやさしい環境保全に取り組みます

- 笑顔
- 私たち自身が生き生きと輝きを放つ働き方を実践します
 - お客様、従業員、株主、家族、大切な人たちの笑顔が絶えない世の中の実現を目指します

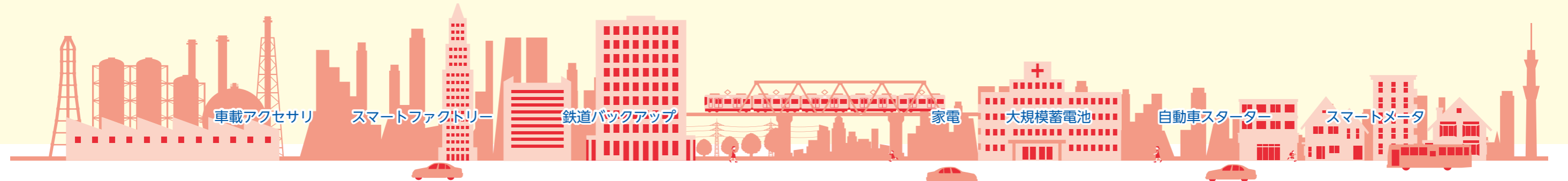
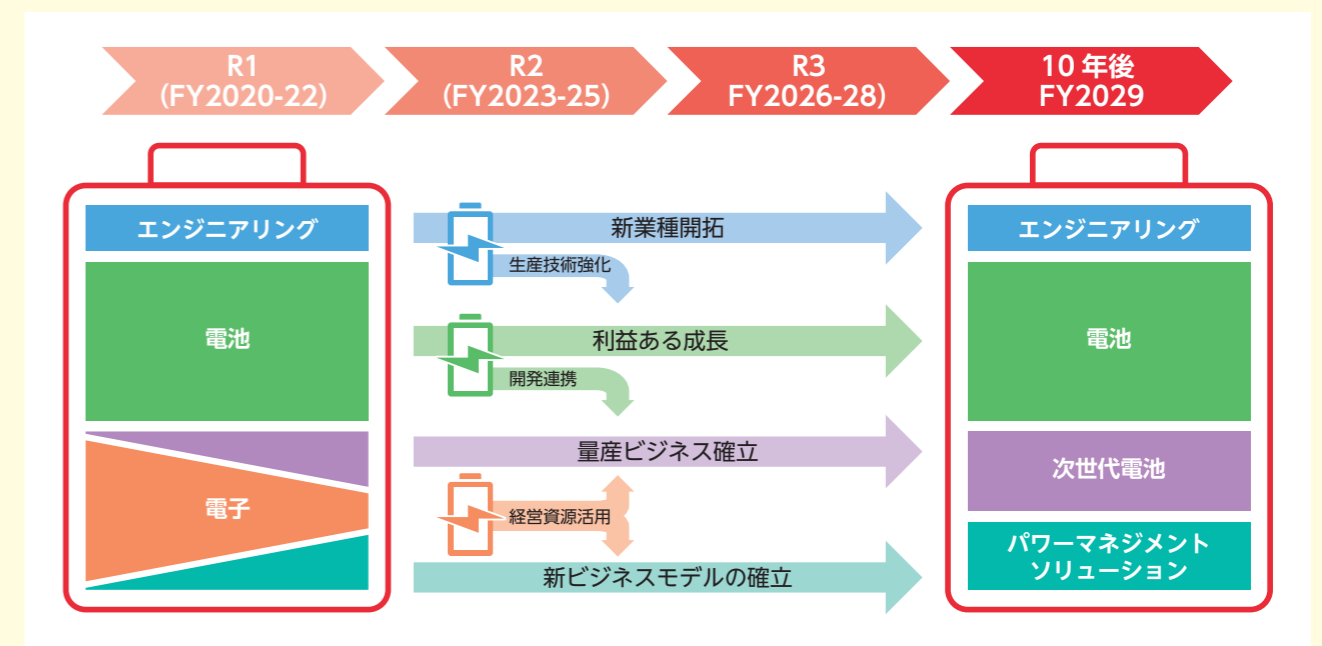
- 行動規範
- 人権を尊重します
 - 知的財産を守り尊重します
 - 公正で自由な取引を行います
 - 情報セキュリティを徹底し、秘密を保持します
 - 法令および社会規範を遵守します
 - 業務上の立場を私的に利用しません

FDKグループ戦略Framework「10年の計」 および中期事業計画「R1」について

FDKグループは、粉体を中心とした材料開発に立ち返った基盤事業の強化を図り、電池・電子事業のシナジーを活かした製品をインダストリアル市場とコンシューマー市場への提供を通じて「エネルギー・マネジメントメーカー」としてのプレゼンスの向上を図ることを柱とした「中期経営計画1618」を策定し、展開してまいりました。

差別化技術においては、SMD対応小型全固体電池の高エネルギー密度の正極材料開発、サンプル仕様の確立、広温度・高出力・長寿命特性を持つ各種電池の開発に努めてまいりました。また、小型・高密度特性のモジュール開発にも努めてまいりましたが、市場での競争激化や市場の停滞により、当初計画に対して大幅な乖離が生じました。

かかる状況のもと、FDKグループのさらなる経営体質の強化と企業価値の向上を図るためFDKグループのビジョンのブラッシュアップを行うとともに、様々なステークホルダーの方々の期待にお応えすべく、10年後のあるべき姿として「10年の計」と、このあるべき姿実現に向けた最初の3年間の中期事業計画「R1」を策定いたしました。



あるべき姿

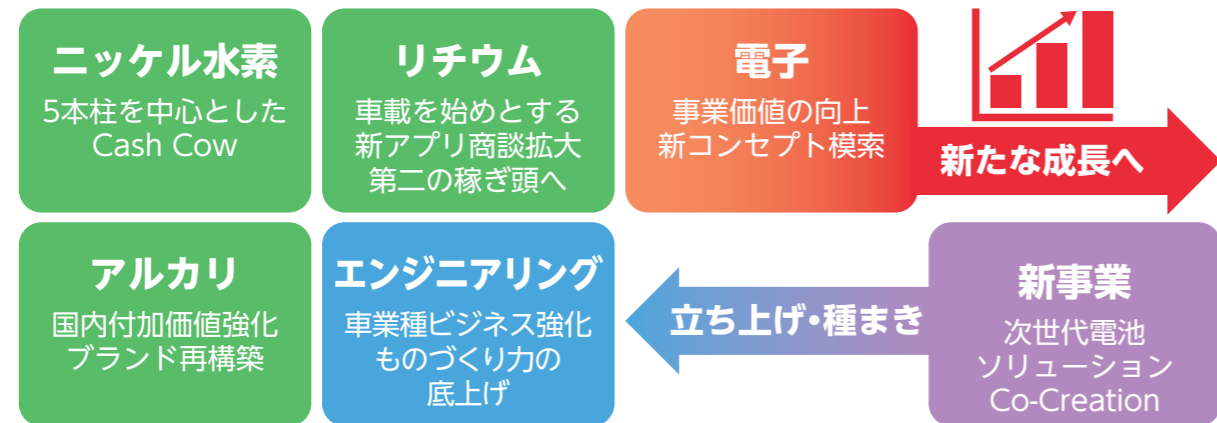
R1の全体方向性

FDKグループは、Visionとあるべき姿の実現に向かって、2022年度までに

- 1) 現行ビジネスの安定化と利益ある成長を確立し、
- 2) 次世代へつながる新事業を積極的に開拓し、
- 3) 各自が自律的にお客様に満足いただける努力を怠らない企業文化の醸成に努めます

R1事業ポートフォリオ

- ニッケル水素・リチウムの二本柱の安定化
 - アルカリ事業の再建とブランド再構築
 - ものづくり力の強化
 - 電子は新たなコンセプトのもとでの再生による成長を目指す
 - 新事業の立ち上げ・種まき、パートナーとのCo-Creation
- ニッケル水素電池
 - アルカリ乾電池
 - リチウム電池
 - 次世代電池
 - パワーマネジメントソリューション
 - エンジニアリング



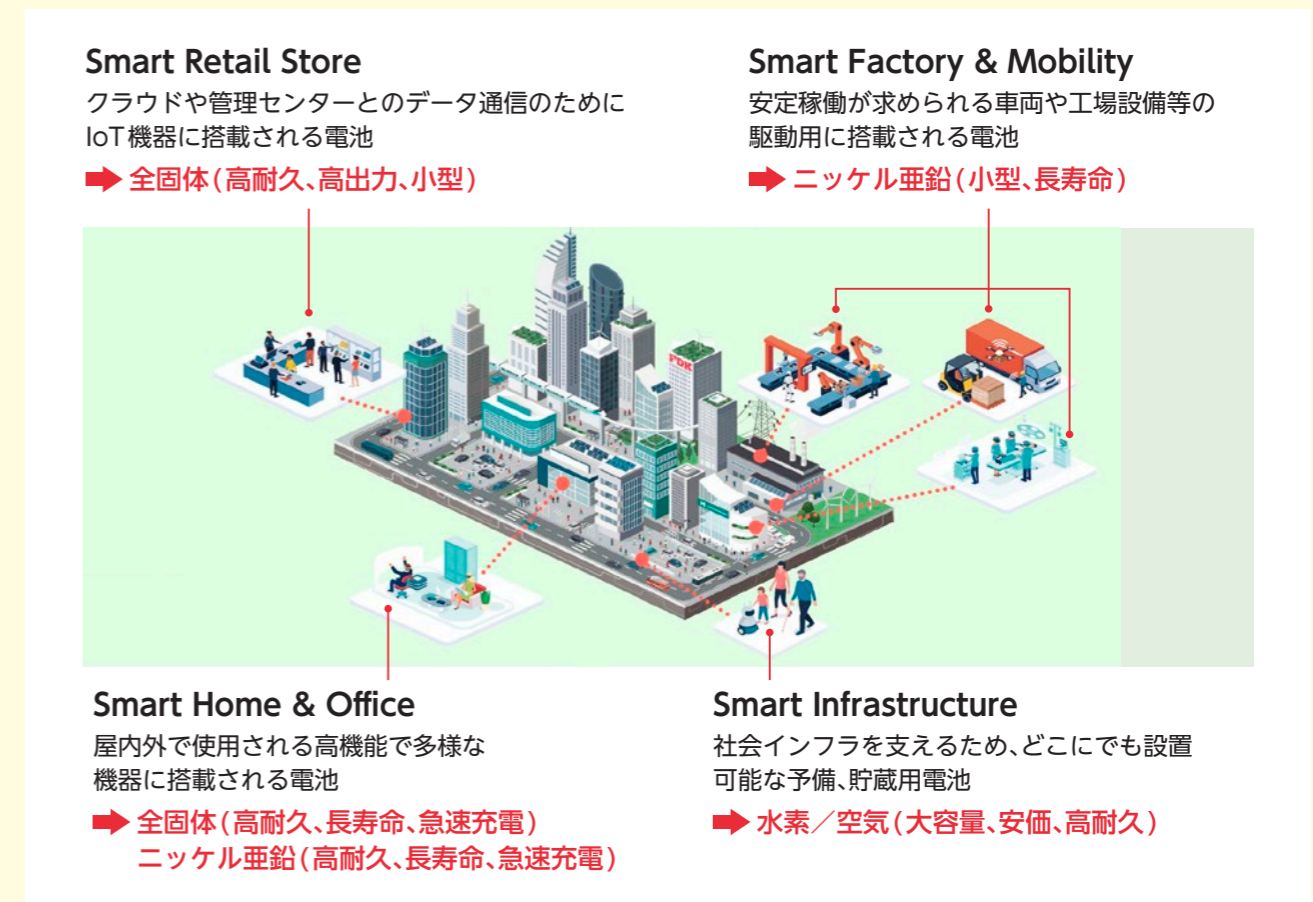
Vision & あるべき姿

電池活用シーン

クリーンかつ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフリングは、社会のあらゆる場面で活用されます。

次世代電池活用シーン

小型大容量、高信頼、高耐久等の特性を持つ、新たな電池が、様々な場面で、利用機会を創出します。



進捗状況

1 現行ビジネスの安定化と利益ある成長を確立

製品	テーマ	進捗状況
ニッケル水素電池	5本柱(家電/車載アクセサリ/電源バックアップ/モビリティ/社会インフラ)を中心としたCash Cow	業界最高水準の長寿命(当社調べ)を実現した「HR-AAAUTU」を量産開始。セキュリティ機器、計測器、非常灯、誘導灯、医療機器、その他バックアップ機器へのさらなる拡販を推進中
リチウム電池	車載をはじめとする新アプリ商談拡大。第二の稼ぎ頭へ	2020年2月のプレスリリースのとおり鳥取工場の組立ラインを増設し、生産能力を25%増強
アルカリ電池	国内付加価値強化。ブランド再構築	インドネシア生産子会社の譲渡および海外販売体制を見直し、国内市販ビジネスは製販一体の体制とし同業他社連携強化も併せて取り組み中
エンジニアリング	車業種ビジネス強化。ものづくり力の底上げ	車業種の投資抑制などにより2020年度は減収となったが、新分野の設備商談を獲得に向け取り組み中
電子事業	事業価値の向上。新コンセプト模索	各製品モデル毎に選択と集中を継続。モビリティ用途向け各種モジュール、半導体装置用途などに注力

2 次世代へつながる新事業を積極的に開拓

製品	テーマ	進捗状況
全固体電池	量産開始:2020年度3Q	2020年12月度に当社湖西工場内に生産体制の整備を行い、生産を開始
ニッケル亜鉛電池	量産開始:2022年度	鉛電池代替用途に開発中。2021年度上期にサンプル提供予定
水素/空気二次電池	フィールド試験:2022年度	1.2kWhの蓄電モジュールにて、2022年度にフィールド試験を開始予定

安全・安心で環境に配慮した製品を 提供するために

	開発・技術	調達	製造	販売	物流
機会面	<ul style="list-style-type: none"> ● エコシステムを活用した製品開発 ● 持続可能な社会の実現と発展に貢献する製品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● グリーン調達、CSR調達の推進 ● お取引先様とのCSR調達分野におけるパートナーシップの構築 ● 紛争鉱物管理への対応 ● 公正な取引 	<ul style="list-style-type: none"> ● 品質マネジメントシステム構築による製品品質の確保 ● お客様の信頼に応える品質の提供 ● 労働安全衛生活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様満足の追求 ● 環境配慮製品の販売促進 ● 公正な取引 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境に配慮した物流促進 ● 各輸出入関係法令の遵守
リスク面	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境配慮製品のタイムリーな開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安定した原材料の調達 ● 紛争鉱物に対する関係法令の遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働関係法令の遵守 ● 労働災害事故の発生防止 ● 品質事故の発生防止 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安定した製品供給 ● BCPマネジメント推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流の効率化
関連するSDGs項目					

行動基準

進化

- 固定概念や自分の殻を打ち破ります
- 日々変化し続ける多様な世の中に対応します

挑戦

- チャレンジすることを恐れず、一歩踏み出す勇気を持ちます
- 失敗から学び、互いに助け合い、成長を繰り返す組織風土をつくります

未来

- 世界の人々に快適な日常と利便性を提供します
- 地球と生命にやさしい環境保全に取り組みます

笑顔

- 私たち自身が生き活きと輝きを放つ働き方を実践します
- お客様、従業員、株主、家族、大切な人たちの笑顔が絶えない世の中の実現を目指します

行動規範

- 人権を尊重します
- 公正で自由な取引を行います
- 法令および社会規範を遵守します
- 知的財産を守り尊重します
- 情報セキュリティを徹底し、秘密を保持します
- 業務上の立場を私的に利用しません

CSR マネジメント

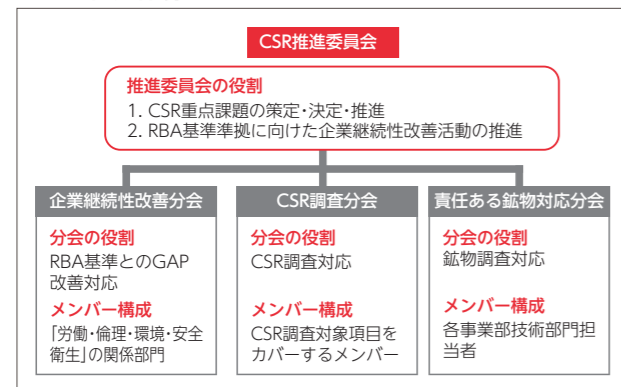
FDKグループにとってのCSR活動は、「FDK企業行動指針」と富士通グループの一員としての「FUJITSU Way」の実践を通じて、様々な社会課題の解決に取り組み、地球と社会の持続可能な発展に貢献していくことです。

FDKグループのCSR基本方針は、FDKグループで働くすべての人が積極的に実践すべき内容を示した「FDK企業行動指針」および富士通グループの一員としてのグループ理念である「FUJITSU Way」を実践することです。FDKグループは、「Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します」というビジョンのもと、すべての事業活動において、マルチステークホルダーの期待と要請を踏まえ「FDK企業行動指針」と「FUJITSU Way」を実践することにより、地球と社会の持続可能な発展に貢献してまいります。CSRの実践にあたっては、7つの課題に重点的に取り組んでいます。これらの課題への取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進いたします。

CSR活動推進体制

FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」の浸透、定着を推進するため、「CSR推進委員会」を設置しています。「CSR推進委員会」は、FDKグループの全社横断的なCSRマネジメント推進のため、取締役執行役員（コーポレート本部長）を委員長とし、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題の取り組み状況の確認およびCSRに関連した情報や取り組みの確認などを定期的に行っています。また、FDKグループのCSR基本方針、CSR基本方針にもとづく重点課題、施策、活動実績などは、弊社ホームページにて公開しております。「CSR推進委員会」には、国際的なCSR規範の一つであるRBA (Responsible Business Alliance) への準拠活動やお客様等からのCSRに関する調査・要請への対応、責任ある鉱物調達適切なマネジメントを目的とした3つの分会を設置しております。

● CSR推進体制図



CSRに配慮した調達活動

FDKグループでは、「FDKグループCSR基本方針」「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」にもとづき、お取引先様とともにCSRに配慮した調達活動を推進していくための指針として「FDKグループサプライチェーンCSR推進ガイドブック」を作成し、ホームページにて公開しております。本指針を遵守した調達活動を実践するとともに、サプライチェーンを構成するお取引先様にも本指針の遵守をお願いしております。



責任ある鉱物調達の方針

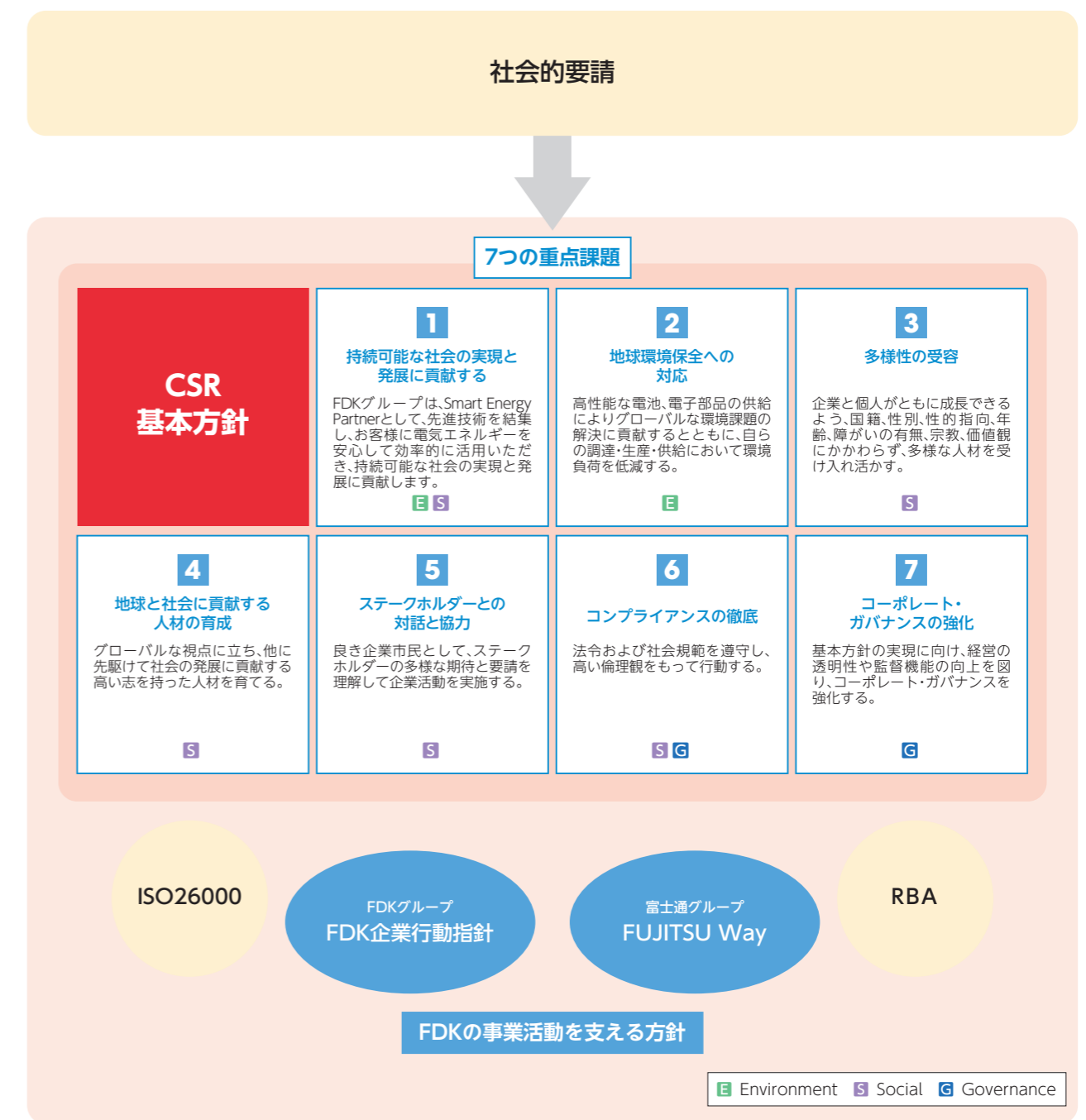
FDKグループは、「富士通グループ責任ある鉱物調達方針」に従い、鉱物問題にかかる企業の責任を重要なCSR課題の一つとしてとらえ、紛争を助長している、あるいは強制労働や人権侵害と関連する高リスク鉱物として「タンタル、錫、金、タングステンおよびコバルト」を特定し、問題のある精錬所等の業者をサプライチェーンから排除していくことを方針としています。FDKグループは、サプライチェーンの透明性の確保と責任ある鉱物調達に取り組んでまいります。

*「紛争鉱物」
その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長している、あるいは人権侵害、労働問題などと密接に関連している鉱物。
2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」において、コンゴ民主共和国および隣接国で産出される鉱物のうち、タンタル、錫、金、タングステンその他国務省が判断する鉱物を紛争鉱物として、米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合の米国証券取引委員会（SEC）への報告義務などが定められた。
尚、FDKでは2019年度より、従来の紛争鉱物（3TG）にコバルトを加えた高リスク鉱物に対する「責任ある鉱物調達」に取り組んでいます。

CSR基本方針にもとづく7つの重点課題の位置づけ

FDKグループでは、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題を設定しています。これらの重点課題は、社会的な要請への対応や責任ある経営を推進するために、重要度、優先度を検討して設定しています。7つの重点課題の実践を通じて、すべてのステークホル

ダーに価値を提供し、FDKグループのビジョンの実現に取り組んでいます。CSRマネジメント活動として、ISO26000の中核課題やRBAの5つのセクションにおける規範への準拠活動を進め、経営品質の向上を図っています。



7つの重点課題

FDKグループは、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題を制定し、CSR活動を推進しています。この重点課題は、FDKグループの事業を通じての社会貢献と、ISO26000における基本原則、中核課題やRBA等において求められる事項に積極的に取り組み、グローバル企業として責任ある経営を推進することを目的とし、次のとおり取り組んでいます。

重点課題	あるべき姿	重点施策	2020年度の取り組み		ISO 26000	参照		
			目標	実績				
1 持続可能な社会の実現と発展に貢献する FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。	電池/エンジニアリング、次世代電池、パワーマネジメントソリューションの分野でクリーンかつ安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフアリングをお客様にお届けする。	エコシステムを積極的に活用し、様々なパートナーとともに提供価値を高め、お客様による電気エネルギーの様々な活用を可能にする製品およびソリューションを開発し提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ●市場ニーズに応える製品を成長が見込まれるインダストリアル市場に向けて継続的に投入する ●電池・電子の保有技術を活用し、市場ニーズに応える製品を市場に投入する 	<ul style="list-style-type: none"> ●市場リサーチの強化を進め、お客様や市場の動向を迅速に察知し、ニーズに即した技術開発提案を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●安全性や保存性能を改善したより安全・安心な電池製品やコストダウンモデル、環境に配慮したパッケージを使用した電池製品の開発、供給を行いました。 ●車載、防災/セキュリティ、スマートメータ、バックアップ電源用途などに、お客様の要望や環境課題に対応した電池製品の開発、供給を行いました。 		P21~P24	
2 地球環境保全への対応 高性能な電池、電子製品の供給によりグローバルな環境課題の解決に貢献するとともに、自らの調達・生産・供給において環境負荷を低減する。	環境問題を常に意識し、クリーンエコノミー時代の実現に向けての製品提供により社会全体の環境負荷・環境リスク低減に積極的に取り組んでいる。	お客様の環境負荷低減 ライフサイクルを考慮した環境配慮製品開発の推進(省エネルギー効率改善製品、省資源効率改善製品) 自らの環境負荷低減 ●エネルギー消費CO ₂ 排出量の削減 ●廃棄物発生量の削減 ●化学物質発生量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー効率改善に寄与する製品各拠点4件/年以上開発する ●資源効率改善に寄与する製品を各拠点3件/年以上開発する ●エネルギー消費CO₂排出量を国内FDKグループ全体で34,568t以下に抑える 	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー消費原単位を各拠点年平均1%改善する ●廃棄物発生量原単位を各拠点2015年度比5%改善する ●PRTR法対象物質排出量原単位を各拠点2015年度比5%改善する 	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー効率改善に寄与する製品開発目標は、目標達成しました。 ●廃棄物発生量削減目標は、目標未達となりました。 ●CO₂排出量削減目標は、目標達成しました。 		P31~P34	
3 多様性の受容 企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、性的指向、年齢、障がいの有無、宗教、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かす。	FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別*を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践している。 * 国籍、人種、性別、宗教、信条、社会的身分、出身地、障がい、性的指向などによる不当な差別やセクシャルハラスメント、精神的もしくは肉体的な暴力などによる人権侵害	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての人が働きやすい職場環境の整備 ●人事・処遇制度の改善 ●研修・セミナーによる啓発活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者、LGBTに対応した働きやすい職場環境を構築する ●業務棚卸の推進と多様な働き方の導入を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ●グループ全体の教育制度を改善する ●多様な「個」が活躍する風土を醸成する 	<ul style="list-style-type: none"> ●高崎工場に多目的トイレを設置しました。 ●従業員投票で選定した新制服の配布を完了しました。 ●2020年4月1日にテレワークを正式導入しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●マネジメント研修を計画通りに実施しました。 ●従業員満足度調査を実施しました。(回答率99.7% 昨年比+3.1ポイント) 		P27~P29
4 地球と社会に貢献する人材の育成 グローバルな視点に立ち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材を育てる。	長期的視点に立ち、ビジネスを通じてグローバルに活躍できる人材を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> ●ビジネスを通じて地域・社会に貢献する人材の育成システム充実 ●地域・社会とのつながりによるコミュニケーション力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ●階層別研修を充実させる ●カリキュラムのブラッシュアップ ●グローバルビジネス・次世代リーダーを育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ●階層別研修は、問題解決についてディスカッションする研修方式に見直しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代リーダー育成研修を計画通りに実施しました。 		P29~P30	
5 ステークホルダーとの対話と協力 良き企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施する。	公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行い、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的にしている。	ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応 ●CSR報告書の発行 ●お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示 ●株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討 ●取引先:双方向コミュニケーションの充実 ●従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話 ●地域社会:地域住民への社会貢献活動(地域住民交流会、清掃活動、工場見学、乾電池教室など)	<ul style="list-style-type: none"> ●CSR報告書の発行 ●お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示 ●株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●取引先:双方向コミュニケーションの充実 ●従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話 ●地域社会:地域住民などへの社会貢献活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●CSRレポート(2020)を発行しました。 ●適時開示を継続的に実施しました。 ●顧客からの問い合わせへの対応件数(会社概要等):45件 ●メディア・株主・投資家からの問い合わせへの対応件数:187件 ●2021年4月の決算発表時に決算短信と別に「決算説明および中計進捗状況」資料開示 	<ul style="list-style-type: none"> ●「FDKグループサプライチェーンCSR調査票」を主要取引先に展開しました。 ●労使連絡会は毎月開催しました。人事ホットラインへの相談件数:3件 ●各事業所にて地域社会貢献活動を継続して実施しました。 		P25~P26
6 コンプライアンスの徹底 法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動する。	経営者および全従業員が常に法令および社会的規範を遵守した行動をし、また新規・改正情報も迅速に認識、対応できている。	<ul style="list-style-type: none"> ●企業継続性改善活動拡充(評価・改善、教育など) ●コンプライアンス関連規定の整備 ●教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む) ●モニタリング強化 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映 	<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンス関連規定の整備 ●教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ●モニタリング強化 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映 	<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンス関連規定の整備を行いました。 ●e-learningを実施しました。(防災、国内コンプライアンス、海外コンプライアンス) ●内部通報受付:6件 	<ul style="list-style-type: none"> ●内部通報窓口の周知:9回 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映を行いました。 ●法令改正情報などをまとめた社内向け法務ニュースを発行しました。 		P17~P20
7 コーポレート・ガバナンスの強化 基本方針の実現に向け、経営の透明性や監督機能の向上を図り、コーポレート・ガバナンスを強化する。	経営者はコーポレート・ガバナンスの本質をよく理解し、必要に応じた経営体制の見直し、組織の整備などを実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ●取締役会の監督機能が十分であり、監督と業務執行が分離され、的確な意思決定が行われる機関設計の検討 ●取締役会の実効性の維持、向上を目的とした取締役会の評価(自己評価と外部機関による検証、継続的改善)およびトレーニングの実施の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ●監査等委員会室による社外取締役との円滑な情報共有と質の高い監査・監督の継続 ●取締役による取締役会の自己評価とトレーニングの継続 ●執行役員による上記トレーニングへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ●監査等委員会室による社外取締役との円滑な情報共有と質の高い監査・監督の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ●取締役の取締役自己評価とトレーニングおよびトレーニングへの執行役員の参加 		P17~P20	

マネジメント体制



社会的要請

- 経営の透明性の確保
- 企業倫理の継続的向上
- 監督機能の強化

FDKのアプローチ

- コーポレート・ガバナンスの強化
- コンプライアンスの徹底
- 内部統制システムの継続的な運用

マネジメント体制のハイライト

社外取締役の人数 (取締役総数7名)	全従業員対象の コンプライアンス教育 受講者数	社内イントラネットでの コンプライアンス関連 情報発信件数	リスク調査対応件数
3名	4,427名	4件	61件
労働災害発生件数	労働災害度数率	労働災害強度率	内部通報件数
3件	0.00	0.00	6件

マネジメント体制を支える取り組み

コーポレート・ガバナンスの強化

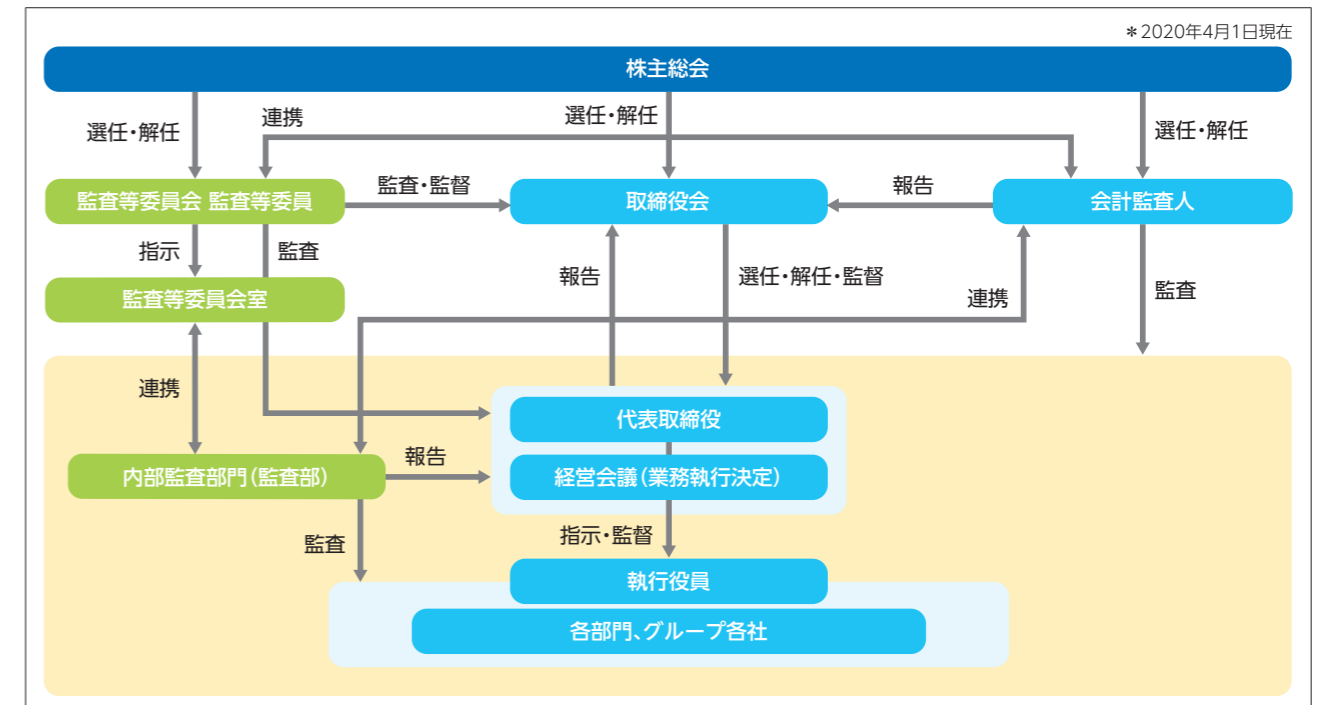
基本的な考え方

FDKグループは、コーポレート・ガバナンスを充実することが、企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、金融商品取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じて経営体制の見直し、組織の整備、必要な施策を実施しております。また、経営内容の迅速な情報開示に努めるとともにインターネットを通じて財務情報の提供を行うなど幅広い情報開示を図り公正性と透明性を高めることにも努めています。当社は業務の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、取締役会のチェック機能を強化するため、執行役員制度を導入しています。当社の取締役会は、取締役（監査等委員を除く）4名と監査等委員である取締役3名で構成されております。取締役会は原則毎月1回開催し、経営に関する重要事項を決定するとともに、業績の進捗状況についても議論し、対策等を

検討しております。

監査等委員会は、社外取締役2名を含む取締役3名の監査等委員で構成され、原則毎月1回と必要に応じて随時開催し、経営の適法性および妥当性の監督、監査を行っています。また各監査等委員は取締役会に出席し、経営全般または個別案件に関する客観的かつ公正な意見陳述を行うとともに、監査等委員会で立案した監査方針に従い、取締役の業務執行の適法性、妥当性を監査しております。コーポレート・ガバナンス充実のための施策として、当社グループ全体のコンプライアンスの推進に積極的に取り組むため「FDK企業行動指針」において法の遵守の基本原則を設けており、また、富士通グループの共通の基本理念である「FUJITSU Way」を遵守しております。

コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制システムの構築

基本的な考え方

FDKグループは、企業の社会的責任を果たすためには、コーポレート・ガバナンスの充実が不可欠であるとの認識のもと、お客様、取引先、株主、従業員、地域社会などのステークホルダーとの健全で良好な関係を維持しつつ、業務の適正、財務報告の信頼性を確保するとともに、関連法規、定款を遵守する経営を実現してまいります。また、当社グループの企業価値の持続的向上を図るためには、経営の効率性を追求するとともに、事業活動より生じる様々なリスクをコントロールすることが必要であり、以下の諸施策の継続的な実施を推進してまいります。

業務の適正を確保するための体制

1. 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

コンプライアンスの徹底

基本的な考え方

FDKグループは、従業員一人ひとりの行動の基準となる「FDK企業行動指針」を定めています。この行動指針を構成す

4. 当社および子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 当社および子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 監査等委員会の監査の適正性を確保するための体制

①取締役トレーニング

専門知識の更新および専門知識外の習得を目的として、取締役および執行役員を対象としたトレーニングを実施し、取締役および執行役員の知識、知見の向上に継続して取り組んでいます。

②取締役会実効性評価

アンケートによる評価手法および第三者機関によるアンケートの分析結果にもとづいたディスカッションを実施し、取締役会における課題の討議を行い、取締役会の監督機能強化に継続して取り組んでいます。

る要素に「行動規範」があり、この「行動規範」において「人権を尊重する」、「公正で自由な取引を行う」、「法令および社会規範を遵守する」、「知的財産を守り尊重する」、「情報セキュリティを

徹底し、秘密を保持する」「業務上の立場を私的に利用しない」ということを明確にし、消費者やお取引先様の信頼を得られるように努めています。

コンプライアンス教育

当社では、新入社員教育、中堅社員教育、新任課長研修などの階層別研修において、社内規則や外為法、製造物責任法、独占禁止法、個人情報保護法などの業務に関係の深い法令について説明を行い、理解促進を図っています。上記の他にも全従業員を対象とした様々なコンプライアンス教育(e-learningを含む)を継続して実施しています。輸出管理および下請け取引につきましては、各事業所において講習会を実施しています。また、イントラネットを利用して、関連法令の改定情報や違反事例の紹介周知などコンプライアンスに関する様々な情報を従業員に提供し、法令遵守に関する意識の向上に努めています。

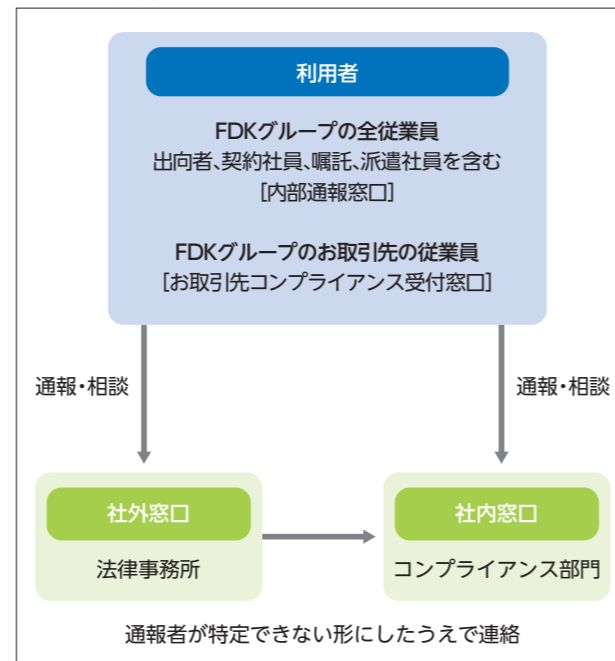
事業運営に関わる法令の遵守

FDKグループの事業運営にあたっては、遵守しなければならない様々な法令があります。これらに加えて、文化や習慣を理解し社会動向などにも的確に対応することにより、倫理的な面からもコンプライアンスの徹底を図っています。社内には、「安全衛生委員会」「環境管理委員会」「含有化学物質管理委員会」「輸出管理委員会」「製品安全化推進委員会」などの専門組織を設置し、法令などを遵守した事業運営に取り組んでいます。

内部通報制度

FDKグループにおけるコンプライアンス違反行為に関する通報および相談の適切な処理の仕組みを定めることにより、不正行為等の早期発見と是正を図り、法令を誠実に遵守する公正な経営の強化に資することを目的としています。当社グループでは「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」を設置しています。「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」においては「内部通報規程」によって通報者の秘密が確保されるとともに、通報を行ったことによるいかなる不利益も受けけないことが保証されています。通報にもとづく調査の結果、問題が認められた場合は、すみやかに改善措置を講じています。2020年度は6件の通報があり、適切な対応を行いました。

● 内部通報制度



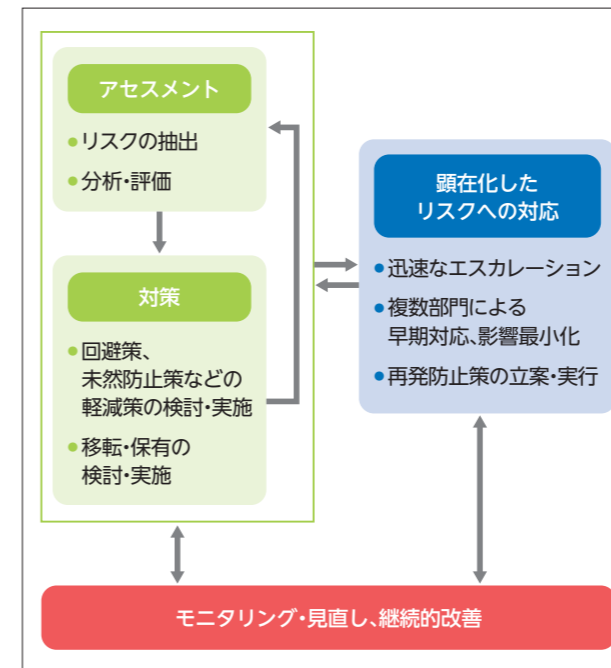
● リスクマネジメントの取り組み

当社グループは、グローバルな事業活動を通じて、企業価値を持続的に向上し、お客様や地域社会を始めとするすべてのステークホルダーの皆様に貢献することを目指しています。この目的を達成するため、事業活動により生じるリスクを的確に把握し、対応することを重要な課題と位置づけ、当社グループ全体のリスクマネジメント体制を構築し、その実践と継続的改善を行います。当社では取締役会において「内部統制システム構築の基本方針」を定めており、どのような体制、規律をもって経営の効率性の追求と事業活動により生じるリスクのコントロールをし、経営に臨むかについてその基本方針を開示しています。

● リスクマネジメントのプロセス

- ①各部門において事業活動にともなう潜在リスクを抽出、評価、検証する。
- ②各リスクの対応優先度を明確化し、リスクコントロール(リスクの回避・軽減・移転・保有)の方針を決定する。
- ③決定した方針に従って、各部門にて未然防止策を検討し、実施する。
- ④リスクが顕在化した場合には、各部門はエスカレーションを実施する。また各関連部門、リスク・コンプライアンス委員会事務局などと連携し、適切な対応をとることによって、問題の早期解決、影響の最小化を図るとともに、原因究明に努め、再発防止策を立案し、実行する。これらの各プロセスにおいても実行状況を確認し、随時改善を図ります。

● リスクマネジメントのプロセス図



安全衛生活動

FDKグループ安全衛生方針

「基本理念」

私たちは、一人ひとりの「生命」と「心」を大切に、人間尊重を基本理念とする。FDKに働く全ての人の安全と健康の確保は、安全衛生の基盤であり、安全第一に徹し、安全・快適な職場づくり、心と体の健康づくりに積極的に取り組み「労働災害ゼロ」「ゼロ疾病」を目指す。

「基本方針」

労働災害はあってはならないを基本に、従業員の安全および健康の増進と確保を目指し、災害ゼロの達成に向け、自主的な安全衛生活動を体系的かつ継続的に展開し、全員参加による安全で快適な職場づくりを実践する。また、従業員の心の健康への対策は、従業員本人や家族の幸せにとどまらず、企業への信頼や円滑な事業運営と言った観点からも重要でありメンタルヘルスへの取り組みを強化する。

労働安全衛生推進体制

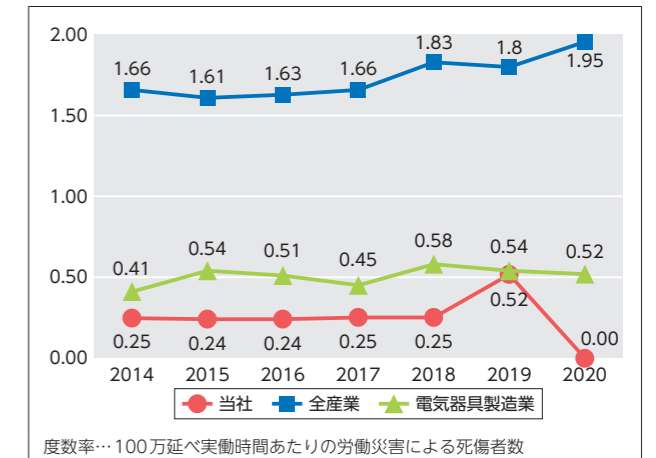
当社グループでは、各事業所における「事業所安全衛生委員会」を統括する機能として、社長および労働組合委員長などで構成する「中央安全衛生委員会」を四半期ごとに開催し、各事業所での活動内容の情報共有を図ると同時に、全社的な安全衛生活動内容を策定しています。各事業所では「事業所安全衛生委員会」を労使合同で毎月開催し、安全衛生活動計画に沿った活動を行っています。なお、一部の事業所では、労働安全衛生マネジメントシステム

である「OHSAS18001」「ISO45001」の認証を取得しておりマネジメントシステムを活用することにより、より高いレベルの労働安全衛生体制の実現に取り組んでいます。

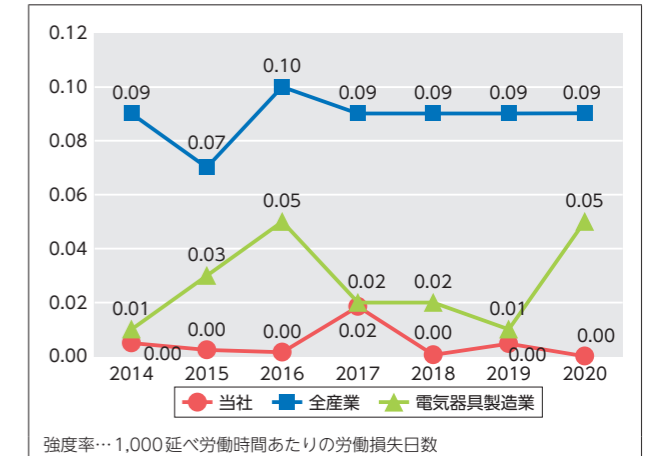
労働災害発生状況

2020年度は、国内事業所で3件の労働災害が発生しました。(交通災害を除く)
国内事業所の労働災害度数率は0.00、強度率は0.00となりました。
度数率(死傷者数/延べ労働時間*1,000,000)
強度率(延べ損失日数/延べ労働時間*1,000)

● 度数率推移



● 強度率推移



お客様・お取引先様とともに



社会的要請

- 製品品質・経営品質の重要性の高まり
- 社会インフラにおける安全安心ニーズの広がり

FDKのアプローチ

- エコシステムを活用し、様々なパートナーとともに提供価値を高め、お客様により電気エネルギーの様々な活用を可能にする。

お客様・お取引先様とのかかわりのハイライト

2020年度製品に関する外部公表件数	ISO9001 認証生産拠点数	IATF16949 認証生産拠点数	ISO14001 認証生産拠点数
8 件	7 拠点	4 拠点	7 拠点

お客様・お取引先様とのかかわりを支える取り組み

FDKグループは、「Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します」というビジョンのもと、提供する製品やサービスを通じて社会課題の解決に貢献してまいります。

人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに、クリーンかつ安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフリングをお届けする。

基本的な考え方

FDKグループは、高品質で安全であり、地球環境にやさしくお客様にご満足いただける電池・電子製品を継続して開発供給するという考えのもと、社会課題の解決に貢献する製品開発、供給、品質保証体制の構築、グリーン調達に努めています。

取り組み事例

FDKグループの取り組み

環境法や環境上の規範を遵守し、地球にやさしい素材を活かした電池・電子製品を提供することで、未来を育む企業としての企業価値向上に努めています。その施策として、これまで電池事業・電子事業で蓄積してきた差別化技術を活用し、そこから生み出される新たな付加価値をお客様にご提供できるように、次世代電池を始めとする新製品開発に取り組んでいます。

2020年度新製品発表事例等のご紹介(抜粋)

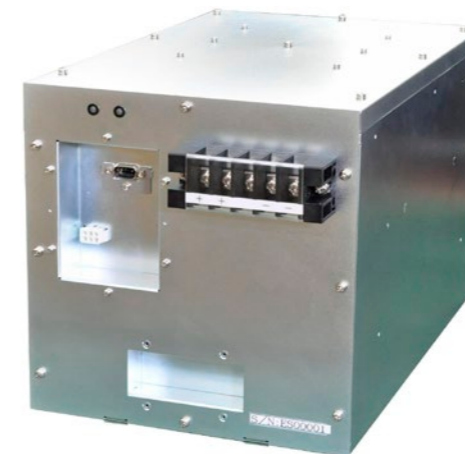
事例1

交通インフラ・産業用途向けDC24V ニッケル水素バッテリーシステム [BBUS-122024-02] を発売

お客様のご要望

- 既存屋外装置の整流器をそのまま使用し置き換えコストを低減したい。
- 既存電池搭載スペースで電池容量を増やし夜間保守の作業時間を延長したい。
- 冬季の低温環境下での電池放電容量劣化を改善したい。
- 電池劣化の兆候をリモート監視し、電池の寿命に至る前に計画的な電池交換を実施したい。
- 新製品の特長
- 鉛蓄電池の充放電挙動を取り入れた制御により置き換えを容易化。
- 小型で並列接続仕様(鉛蓄電池の同等品に比べ体積で34%減、質量で48%減を実現*当社調べ)
- 低温放電特性の良いニッケル水素電池の搭載

- 監視・通信機能を搭載



DC24V ニッケル水素バッテリーシステム [BBUS-122024-02]

事例2

FUJITSU アルカリ乾電池 [Long Life PLUS] 発売

特徴

正極缶にレアメタルコート技術を採用することで、酸化による内部抵抗の上昇と電池内部からの不純物の溶出をそれぞれ抑制し、その結果長期保存後の放電性能と耐漏液性能が向上し、従来品に比べ約2倍、10年間の長期保存を実現しました。中・小電流機器に適した放電性能と10年間の長期保存性能を併せ持ち、かつ高いコストパフォーマンスを備えた新しいスタンダードアルカリ乾電池として、日常生活のあらゆるシーンでお使いいただける電池です。また、本製品はグリーン購入法に適合しており、多本パック、プリスターパックの台紙には、環境に配慮した「森林認証紙」を使用しています。



FUJITSU アルカリ乾電池 [Long Life PLUS]

事例3

高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池の生産能力増強について(生産能力を25%増強)

当社は、メータ通信市場で需要が増加している高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池の組立ラインを増設し、生産能力を25%増強いたします。

当社の高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池は、主にガス、電力および水道などの電子メータに搭載されています。昨今の通信量増大を伴うスマート化によって、駆動時に大電流放電可能なリチウム電池の需要が高まっております。また同電池は、火災警報器、医療機器、車載機器などにも使用されており、コロナ禍でも依然として、需要の腰折れはなく、今後も受注拡大が見込まれます。こうした市場環境のなか、当社はリチウム電池の生産工場である鳥取工場の組立ラインを増設し、2021年4月より生産能力を25%増強いたします。また、今回の組立ラインの増設と並行して、従来の組立ラインの利点を踏襲し、改良すべき点を徹底的に見直しました。電池性能、品質および生産性を最大限に引き出すための設備設計はもとより、トレーサビリティシステムの構築などIoTを導入したスマート工場実現を見据えたライン構成とし、受注拡大に対応してまいります。



左:高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池
右:当社鳥取工場

研究開発のコンテンツを新たに当社ホームページに追加

当社は、1950年の創立以来、マンガン乾電池に始まり、アルカリ乾電池、リチウム電池など70年以上に渡って電池の研究開発を続けてまいりました。2010年からはニッケル水素電池も加わり、当社の電池に関する研究開発の領域は広がり、知見や経験はますます深まっております。

さらに直近では、これまでの研究開発の成果として、全固体電池や水素/空気二次電池など、新しい電池を開発しております。この度、当社が保有している技術および実施している研究開発の一例を当社ホームページでご紹介することにより、お客様をはじめステークホルダーの皆様にご提供できることを、お客様は広く知っていただきたいと考えております。

【追加する研究開発コンテンツのURL】

<https://www.fdk.co.jp/research-and-development/>

● 2020年度の実績

- ニッケル水素電池
家電市場、車載、電源バックアップ、モビリティ用途、社会インフラ向けなどの製品開発・供給に努めました。
- アルカリ電池
高性能・高信頼性の製品開発に努めました。また、環境対応製品の供給を行いました。
- リチウム電池
住警器、車載、AED市場向け製品開発に努めました。業界最高水準の高容量を実現した高出力円筒形酸化マンガンリチウム一次電池を開発しました。
- 電子製品
お客様へ小型・軽量化の提案を行い開発に努めました。またセンシング、ワイヤレス製品の開発に努めました。
- 全固体電池
当社湖西工場においてSMD対応小型全固体電池SoLiCell TMの生産を開始しました。(2020年12月)
- 研究開発
大規模蓄電用次世代電池の一つである水素/空気二次電池を開発しました。(2020年11月)

品質および安全に配慮した製品の開発と品質保証
(FDKグループ品質方針)

「お客様の信頼に応える品質の提供」

〈理念〉

品質第一を基本的な考え方として、高品質で安全な環境にやさしい、お客様にご満足いただける製品を開発・供給して、社会に向け貢献することを使命とします。また、企業責任を問われる重大な品質事故や世界各国の法規制違反など絶対に起こしてはならないと認識しています。

そのため、営業から研究・企画・開発・設計・生産さらに顧客サービスなどの総てのステップにおいて、全部門がお客様起点で行動して、より確かな品質経営を実行します。

〈品質行動指針〉

1. お客様の品質要求事項は、最優先事項として迅速かつ適切に行動し顧客満足度を向上する。
2. 開発段階での源流活動を強化し、品質・価格・納期・環境を造りこみ、量産段階における、品質トラブルの未然防止、採算性の向上、納期の遵守、環境保全の向上につなげる。
3. 製品安全、製品含有化学物質など各種コンプライアンスに関わるリスク管理を継続強化する。
4. モノづくりの改善活動により、工程仕損、クレームによる損失などの品質ロスを徹底して削減する。
5. 品質マネジメントシステムを継続的に改善して、より効果的な品質経営を行う。

品質保証体制

FDKグループは、品質方針・品質行動指針を実現するために品質マネジメントシステムを構築し、品質保証活動に継続して取り組んでいます。2021年3月時点では、海外拠点を含めた8拠点でISO9001認証を取得しており、うち4拠点でIATF16949認証を取得しております。



品質保証の取り組み

お客様が要求する機能・性能・その他の内容を満足する製品・サービスの品質を提供するためには、経営層を始めとする様々な部門が連携し企業活動の全てのプロセスにわたっての全員参加活動が必要であると考えています。FDKグループは、多岐にわたる製品群、海外を含めた各事業拠点の品質保証活動における連携活動にも取り組んでいます。品質保証統括部では、その活動を活性化するため全事業部との情報共有、品質方針の策定、コンプライアンスに関わる問題や品質トラブル発生時のエスカレーション、人材育成のための教育、不具合事例やノウハウなどについての水平展開にも積極的に取り組んでいます。また、経営トップ主催による「全社品質管理委員会」を設置しており、経営面からのアプローチも行っています。

品質保証強化への取り組みの改善プロセス

1. FDKグループの品質方針実現のために、製品企画から量産

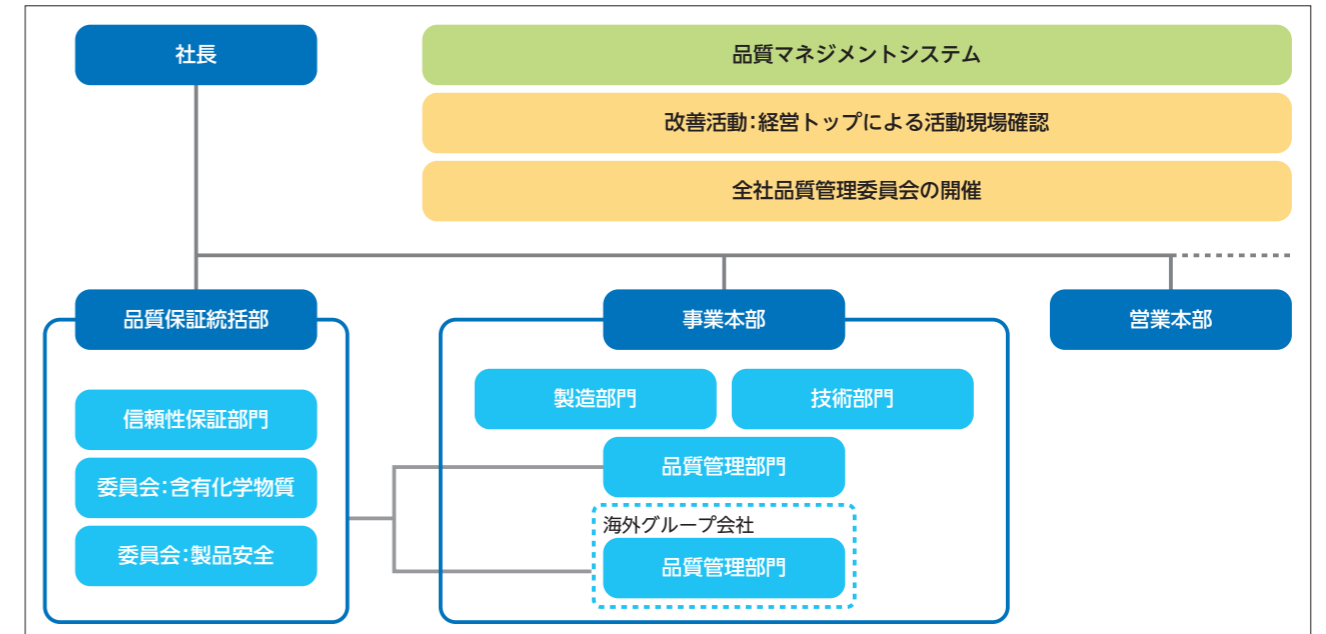
移管に至る各検証プロセスにおいて、品質関連規定等にもとづき、自部門だけでなく関係部門も交えた広い知見でレビューし、より客観的な検証を行っています。

慮した製品の供給により、持続可能な社会の実現に貢献しています。各物資の調達には、「FDKグループ グリーン調達基準」にもとづいた環境に配慮した物資の調達を行い、環境に配慮した物資を使用することにより、お客様へ環境配慮製品を提供しています。

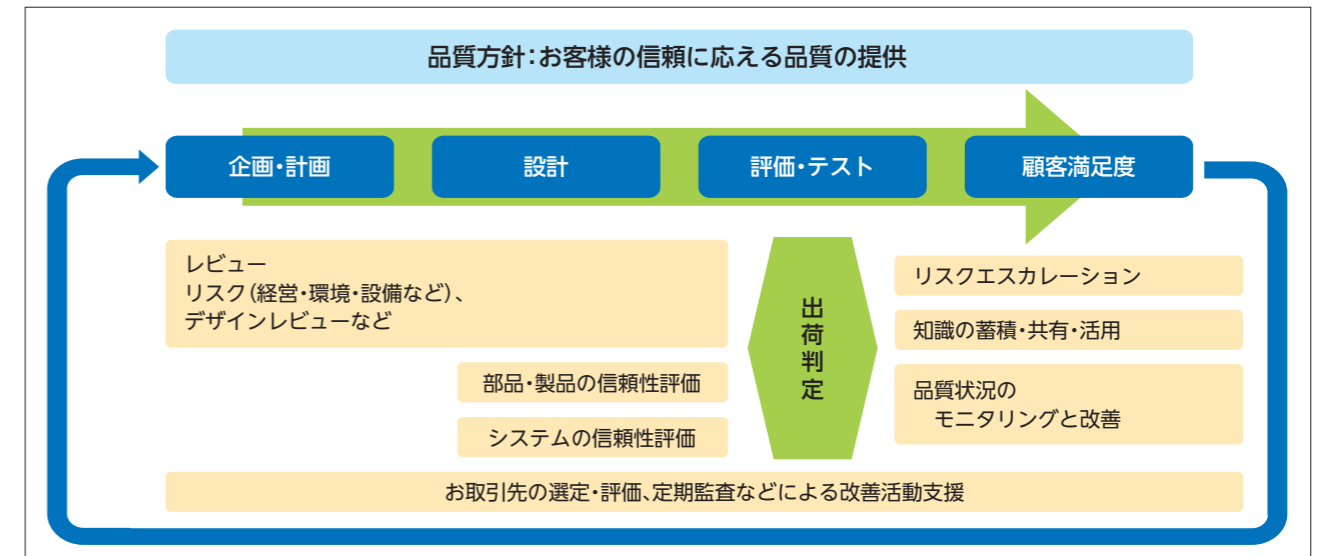
2. グリーン調達活動の取り組み

FDKグループは、環境負荷を考慮した事業活動と環境に配

● 品質保証体制図



● 品質保証の各検証プロセス図



社会とのかかわり



社会的要請

- 公開すべき情報の的確な開示
- ステークホルダーとの対話機会の充実
- 非財務情報開示要請の高まり

FDKのアプローチ

- ステークホルダーとの対話と協力
- 情報提供要請に対する適切な情報開示
- 研究開発コンテンツを当社ホームページに追加
- 地域社会・地域住民等への社会貢献活動

社会とのかかわりのハイライト

工場見学受け入れ件数	乾電池教室開催件数	障がい者訓練生の企業実習受け入れ数	地域での清掃活動件数
中止	中止	3名	12件
メディア・株主・投資家との対話件数	お客様よりのCSR／紛争鉱物調査対応件数	地域イベント参加数	「太陽とツナガル電池の音」コンサート
187件	168件	40件	7回

社会とのかかわりを支える取り組み

ステークホルダーとの対話と協力

基本的な考え方

FDKグループは、良き企業市民としてステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を行っています。公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行い、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的に行うことによって、企業価値の向上に努めています。

2020年度の目標

- 1 CSR報告書の発行
- 2 お客様からの情報開示要求に対する適切な対応
- 3 メディア・株主・投資家様
株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示経営方針・決算説明会などの対話に向けた検討

- 4 お取引先様との双方向コミュニケーションの充実
- 5 従業員との対話
- 6 地域社会・地域住民等への社会貢献活動の継続実施

2020年度の実績

- 1 2020年版CSR報告書を発行し、非財務情報の開示を行いました。
- 2 お客様への対応
45件の会社情報等のお問い合わせに対し、情報提供を行いました。
- 3 メディア・株主・投資家様への対応
・187件のお問い合わせをいただき、適切な説明を行いました。
・2021年4月の決算発表時には決算短信と別に「決算説明および中計進捗状況」資料を開示しました。
・研究開発のコンテンツを当社ホームページに追加しました。

4 お取引先様との関係

部材調達先、人材派遣会社、業務委託会社、食堂提供会社、警備会社等にCSR調査を実施し、その結果をお取引先様と共有しました。

5 従業員との関係

労使懇談会を毎月実施し、意見交換を行いました。また、従業員満足度調査を実施し、結果を分析して対応しました。

6 地域社会への貢献

コロナ禍の中でありやむなく中止とした活動もありましたが、各拠点にて可能な活動を行いました。

地域社会・地域住民への社会貢献活動

各拠点にて地域社会・地域住民への社会貢献活動を実施しています。

活動例

- 1 拠点周辺の清掃活動
- 2 福祉協議会へ使用済み切手・ベルマーク等の提供
- 3 フードバンクへ防災備蓄品提供
- 4 道の駅構内清掃および花壇の除草・花植え
- 5 障がい者訓練生の受け入れ
- 6 献血協力

社会貢献活動トピックス

2021年1月に鳥取県岩美町立岩見中学校様より「総合的な学習・ふるさと先生に学ぶ」へ講師派遣依頼をいただき、鳥取工場の総務人事部より講義を実施しました。SDGsの視点に立った企業の取り組みと、社会人になる前に今しておくべきことについて、事例と経験をもとに説明しました。SDGsは、近年高校入試にも出題されるなど、学校現場でも重要なテーマとして取り上げられており、今回の講義で生徒の皆さん(第一学年 83名)がSDGsについて理解を深めていただく良い機会となったと考えています。

地域社会への恒常的な貢献活動



道の駅花壇の花植 (鳥取工場)



AED取り扱い訓練 (鳥取工場)



工場周辺清掃 (FDKエンジニアリング クリーン作戦)



工場周辺清掃 (高崎工場)



工場前県道清掃作業 (鷺津工場)

従業員とのかかわり



社会的要請

- 働き方改革、働きやすい環境整備
- 均等な雇用(定年後再雇用、障がい者の雇用、女性活躍推進)

FDKのアプローチ

- 多様性の受容
- 働きやすい職場環境の整備
- 地球と社会に貢献する人材の育成

従業員とのかかわりのハイライト

女性社員の雇用比率	女性管理監督職人数	外国人従業員比率 (国内事業所)	障がい者雇用比率
18.8%	3人	0.61%	2.20%
有休取得日数/人/年	育児休職制度の利用者数	労使連絡会開催回数	人事ホットライン相談件数
15.0日	15人	12回	3件

従業員とのかかわりを支える取り組み

多様性の受容

基本的な考え方

方針

FDKグループでは、企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、性的指向、年齢、障がいの有無、宗教、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かすことを方針としています。

あるべき姿

FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践している状態のあるべき姿としています。

施策と取り組み事例

①すべての人に働きやすい職場環境を整備する。

- 障がい者、LGBTに対応した働きやすい職場環境整備
バリアフリー化、多目的トイレ設置を計画的に進めています。
2020年度は、高崎工場に多目的トイレを設置しました。
- 新制服導入

LGBTなどの多様性を尊重し世代・男女を問わずTPOを考慮したデザインとIEC規格対応(静電気帯電防止)で安全性と快適性にも配慮した新制服を導入しました。

②人事・処遇制度の改善

- テレワーク制度を正式に導入しました。

③研修、セミナーによる啓発活動の充実

- マネジメント研修を計画通りに実施しました。

④従業員満足度調査の実施

- 全従業員を対象に従業員満足度調査を実施しました。
(回答率99.7%) 調査結果の課題解決を目的として、組織活性化研修を実施しました。

ダイバーシティの取り組み

当社では、女性社員の活躍機会の拡大と支援を目的として「女性活躍支援プロジェクト」を発足し、「女性活躍支援室」を設置し、2017年4月1日付けで「女性活躍支援室」を「ダイバーシティ推進室」へ改称しました。
ダイバーシティ推進室は、「多様性の尊重」と「働きやすい職場

環境整備」に取り組んでいます。

ダイバーシティ推進室は、コーポレート担当取締役のもと、室長、室員、推進メンバー(各事業所から選任)、および人事、労働組合からのアドバイザーで構成される組織です。

女性活躍推進法にもとづく行動計画

FDKグループは、2010年4月より「次世代育成支援対策推進法」にもとづく行動計画に沿い、従業員ひとり一人が元気にやりがいを持って働くことができる環境の実現に向け、「ワーク・ライフ・バランス」の推進などに積極的に取り組んでいます。2016年4月に施行された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」にもとづき、行動計画を策定しました。今後も、男女ともに活躍できる会社を目指し取り組んでまいります。

第1期行動計画について

女性の活躍を一層推進するため、次の通り行動計画を策定する。

1. 計画期間

2016年4月1日～2021年3月31日までの5年間

2. 当社の課題

- 子育て中の女性社員が働きやすい風土・職場環境となっていない。
- 職場マネジメントが一部不十分であり、仕事と家庭の両立が困難なことから、子育て中の女性の就業継続が難しい。
- 出産・子育て等しながら働き続けている人を支援する職場風土となっていない。
- 柔軟な働き方に対する職場の理解が不十分で、子どもが病気の時などに急に休みをとりにくい。

3. 定量的目標

管理的地位に占める女性の割合を、2015年度から125%以上とする。

4. 取組内容と実施時期

取組1:経営者主導でのワーク・ライフ・バランスを実行

2016年4月～ 女性活躍推進支援プロジェクトを組織化し、定期的な活動状況の確認、各種施策・効果の情報共有を図る。

2016年10月～ 女性活躍推進室主催のイベントを各年度単位で開催する。

取組2:職場対応力・マネジメント強化を目的とした働きやすい環境づくりを推進

2016年4月～ 各種セミナーおよび研修プログラムの企画と検討を行う。

2016年12月～ 男性管理職および職場リーダーの意識改革を目的としたマネジメント研修を実施する。

2017年6月～ 女性社員の意識改革を目的とした、女性キャリア研修を開催する。

取組3:女性社員の積極的な採用と採用計画の推進

2016年10月～ 女性社員の配置職場および職域拡大の検討を行う。

2017年2月～ 人員計画と採用計画と連動した女性社員の積極的な採用の企画を実行する。

第2期行動計画について

女性の活躍を一層推進し、男女ともに長く勤められる職場環境を作るため、次のとおり行動計画を策定する。

1. 計画期間

2021年4月1日～2026年3月31日までの5年間

2. 当社の課題

- 課題1: 職場マネジメントが一部不十分であり、制度利用が理解されていない。
- 課題2: 出産・子育て・介護等しながら働き続ける人を支援する職場風土が必要。
- 課題3: 柔軟な働き方に対する職場の理解が不十分で、急な休みをとりにくい。

3. 目標と取組内容・実施時期

目標1: 管理・監督的地位に占める女性の割合を、2021年度から150%以上とする。

取組内容

- 2021年4月～ 女性活躍を支援する、ダイバーシティ推進室の定例会を開催し、活動状況の確認、各種施策・効果の情報共有を図る。
- 2021年4月～ 自己啓発カリキュラムを提供し、個人のキャリアアップを支援する。
- 2021年6月～ 次世代リーダー養成のための研修へ、女性の参加者を増加させる。
- 2021年9月～ 管理・監督職を対象としたマネジメント研修を開催。
- 2022年10月～ 女性管理職・監督職との意見交換を開催。

目標2: 柔軟な働き方に資するフレックスタイム制、テレワーク等の利用率を2021年度から25%アップする。

取組内容

- 2021年4月～ 制度のブラッシュアップを行い、定期的な周知を行う。
- 2021年6月～ テレワーク用の環境整備
- 2021年9月～ ワーク・ライフ・バランスの重要性をマネジメント研修会で周知する。
- 2021年9月～ テレワーク上のマネジメントのポイント・課題の教育を実施する。

地球と社会に貢献する人材の育成

人材育成

FDKグループの人材育成については、大きく4つのテーマに分けて考えており、それぞれのテーマに沿った教育に取り組んでいます。

1. 階層別研修(底上げ教育)

新入社員から幹部社員まで、各階層の立場にフィットした教育の充実を図ります。

2. プロフェッショナル育成研修

専門セミナー、技能検定受験

各専門分野でのプロフェッショナルの育成、先端技術、最新スキルの取り込みを図ります。

3. ビジネスリーダー育成

次世代リーダー研修、グローバル人材の育成
組織活性化につながるマネジメント力の深堀り。
人材育成への理解・働きかけ

4. 多様な個の成長支援

キャリアデザイン研修・人権教育
キャリア支援等を通じて個々の人材サポート・モチベーションの向上を図ります。

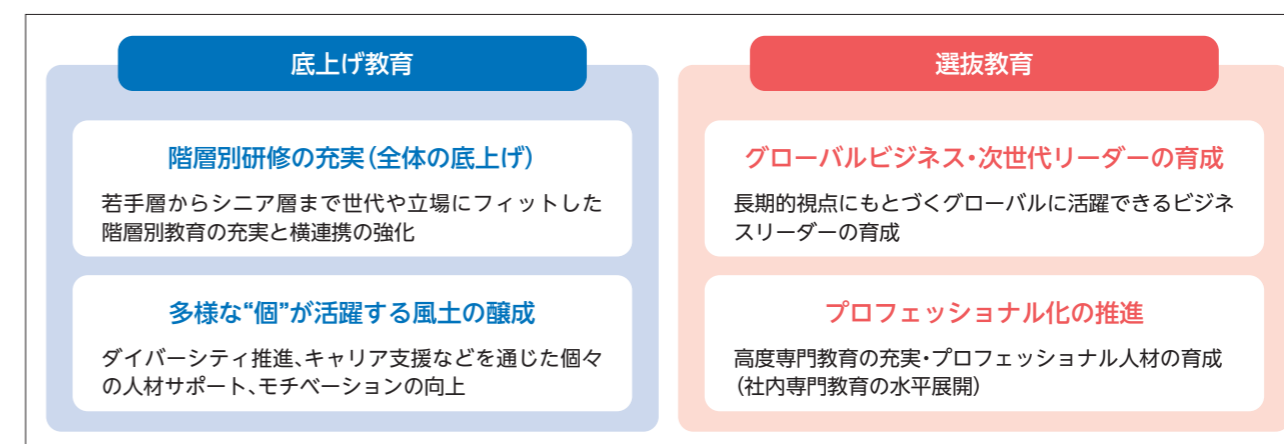
各種教育研修の見直し

1. 階層別教育の見直し
社内基礎教育について、集合型の受講形式を変更し、受講者の業務都合に合わせた学習形式へ変更します。
2. オンライン研修の併用
すべての研修を集合型にするのではなく、オンライン形式でも効果が見込めるものはオンライン研修に変更します。
3. 自己啓発に向けた個人学習ができる機会を提供します。
e-learningを取り入れ自己のスキルアップを目指して手軽に学べる学習の機会を提供します。
4. タレントマネジメントを踏まえた研修の実施
次世代を担う人材の育成を目的とした研修を実施します。

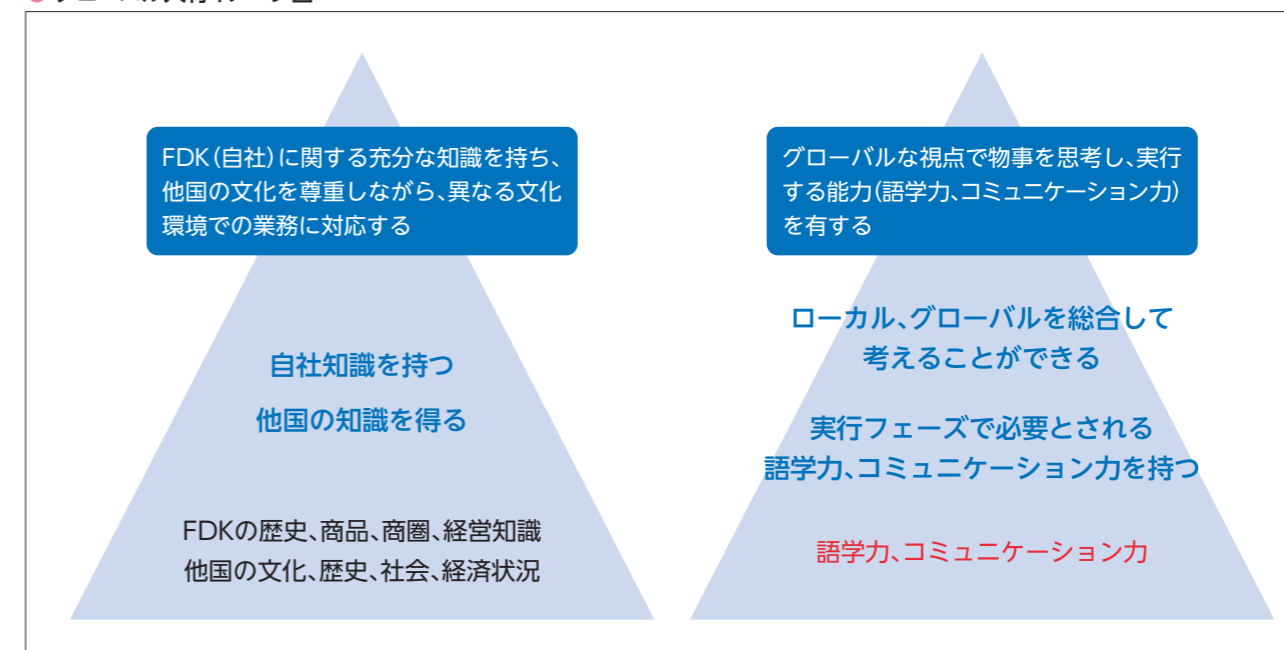
5. 「道場」の充実

「道場」は次に定める活動を行う。

- 1) 多分野において自己研鑽し、知識・能力・心技体を磨き自己の向上を図る活動
 - 2) 他部署、世代間のコミュニケーションを充実させ、組織の強化につながる活動
- 「道場の目的」
- 1) FDKグループの従業員が、多分野において、知識、教養経験などを深め、個人の人生を豊かにする。
 - 2) 自己研鑽の意識・環境を改革し、従業員同士が互いに切磋琢磨【助け合い】と「競い合い」の風土を構築するとともに、技術伝承や世代間交流を通して組織力の強化を図る。



● グローバル人材イメージ図



社会的要請

- 環境負荷低減
- 地球温暖化防止
- 廃棄物の削減

FDKのアプローチ

- 環境配慮製品の開発推進
- 温室効果ガス排出量の削減
- 廃棄物発生量の削減

環境保全活動のハイライト

第9期環境行動計画 目標6項目うち	環境配慮設計	温室効果ガス削減	エネルギー消費原単位
4 項目達成	4 拠点中 2 拠点で達成	目標達成	目標達成
化学物質排出量削減	廃棄物発生量削減	地域環境・社会貢献活動	
目標達成	目標達成	目標未達	

環境保全活動の取り組み

地球環境保全への対応

基本的な考え方

FDKグループは、富士通グループの一員として企業の事業活動に伴う環境保全への取り組みについて、各国、地域の法規制や、温室効果ガス削減、廃棄物削減、化学物質の管理の徹底のみならず、提供する製品を通しての環境負荷低減等、地球規模の視点で主体的に持続可能な循環社会実現に向けて行動しなければならないと認識しています。全社的に、より確かな経営環境を推進するため、「FDKグループ環境憲章」を制定しております。

FDKグループ環境方針にもとづく行動指針

1. ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムにより環境管理を推進し、継続的な改善を図ります。
2. 持続可能な資源の利用、気候変動対策、生態系の保護、および環境汚染の予防を推進します。
3. 事業活動にかかる環境関連法規制および行政との協定など同意した要求事項を遵守します。

4. 次の項目を重点テーマとして、該当する部門にて取り組みます。
 - (1) 環境に配慮した製品開発を推進します。
 - (2) 省エネルギーを推進します。
 - (3) 化学物質を適正に管理します。
 - (4) 廃棄物を削減し、リサイクルを推進します。
 - (5) 地域の環境貢献、社会貢献活動を推進します。
 - (6) 取引先様・お客様でのCO₂排出量削減の取り組みを推進します。
5. この環境方針を達成するため環境目的・環境目標を設定し、FDKグループの関係・グループ会社を含む全社員をあげて環境管理を推進します。
6. この環境方針は、FDKグループの敷地内の関係・グループ会社を含む全社員に周知するとともに一般の人にも開示します。

ISO14001 認証取得状況

FDK株式会社

- 本社・湖西工場・鷺津工場・高崎工場・鳥取工場
- 営業所 首都圏、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡、沖縄 営業センター

国内グループ会社

- 株式会社FDK エンジニアリング
- FDK販売株式会社
- FDKエコテック株式会社
- FDKパートナーズ株式会社

海外グループ会社

- FUCHI ELECTRONICS CO.,LTD.(台湾)
- XIAMEN FDK CORPORATION(中国・廈門)

カーボンニュートラルへの対応

富士通グループ中長期環境ビジョンで2050年CO₂排出ゼロの目標を掲げています。またRE100(企業が自らの事業活動の使用電力を100%再生可能エネルギーで賄うことを目指す国際的なイニシアチブ)の目標として、自らの事業活動の

使用電力について、再生可能エネルギー比率を2030年に40%以上、2050年に100%としています。FDKグループは富士通社目標に合わせてカーボンニュートラルへの対応を進めてまいります。

グリーン調達について

FDKグループは、地球環境問題の改善を考え、環境負荷を考慮した事業活動と環境配慮製品の提供により社会の持続的発展に貢献するように取り組んでいます。その取り組みにおいて、お取引先様からの納入品につきましても、環境配慮製品であることが必要不可欠であり、その考え方を「FDKグループグリーン調達基準」にまとめました。

FDKグループは、「地球環境との共生」を目指して、環境と調和した製品作りのために、従来からの品質(Quality)、価格(Cost)、納期(Delivery)、サービス(Service)に加え、環境(Environment)の側面を評価した調達、すなわち「グリーン調達」を推進しています。

*FDKグループグリーン調達基準 第7.0版
(https://www.fdk.co.jp/kankyou/green_proc.html)

FDKグループ環境憲章

FDKグループは、以下の理念のもと、スローガンを定め、環境経営を推進してまいります。

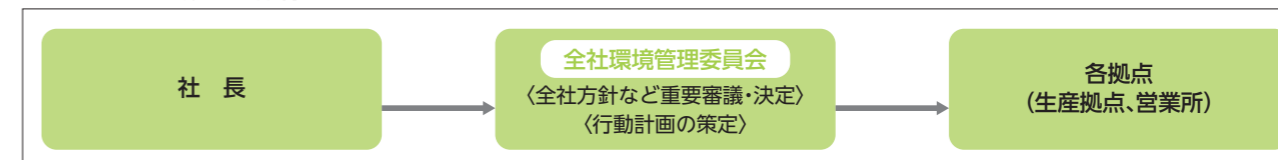
〈理念〉

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。また、FDKグループは、豊かな自然・美しい地球環境を次世代につけていくため、環境法や環境上の規範を遵守した公正な企業活動を通じ、関係・グループ会社を含む全社員をあげて環境への取り組みを推進してまいります。

〈FDKグループ スローガン〉

FDKグループは地球を愛します かぎりある自然のために

FDKグループ環境管理体制



基本的な考え方

FDKグループでは、富士通グループ環境行動計画に準拠した計画を策定し、環境への取り組みを推進しています。これらの方針・目標などを通じて、全事業領域にわたり計画

的、継続的に環境保全活動を展開し、自社の環境負荷低減に努めるとともに、お客様、社会の環境負荷低減にも貢献してまいります。2020年度は次頁のような結果となりました。

● FDKグループ第9期環境行動計画 2020年度実績

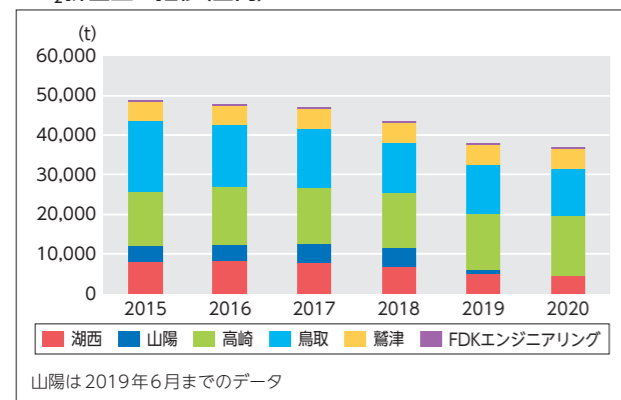
項目	行動計画	全体評価
環境配慮設計	エネルギー効率改善(省エネルギー)に寄与する電池・電子製品を、各拠点で年4件以上開発する	×
	資源効率改善(省資源)に寄与する電池・電子製品を各拠点で年3件以上開発する	×
温室効果ガス削減	国内FDKグループ全体でエネルギー消費CO ₂ 排出量を、2020年度末までに、34,568t以下に抑える	○
エネルギー効率	使用しているエネルギーについて、エネルギー消費原単位を指標として、各拠点で前年度比1%改善する	○
化学物質排出削減	使用するPRTR法対象物質について、排出量原単位を指標として、各拠点で2020年度末までに2015年度比5%改善する	○
廃棄物発生量削減	発生する廃棄物について、発生量原単位を指標として、各拠点2020年度末までに2015年度比5%改善する	○
地域環境・社会貢献活動	地域の環境貢献・社会貢献活動の取り組みを、国内FDKグループ全体で年25件以上実施する	×

社会貢献活動

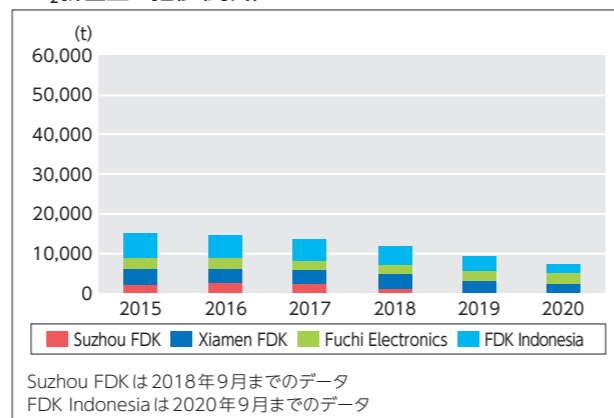
FDKでは、社会貢献活動の一環として、希少楽器であるクラピオラの世界唯一の奏者である折重由美子氏による「太陽とツナガル電池の音コンサート」をサポートしています。このコンサートは、太陽光で充電したニッケル水素電池のみを電源に使用しており、循環型エネルギーを目指した地球環境にやさしい充電電池と地球環境保護をテーマに音楽活動をされている折重由美子氏とのコラボレーションによるコンサートです。FDKグループは、これからも自社の事業を活かした社会・環境貢献活動に取り組んでまいります。



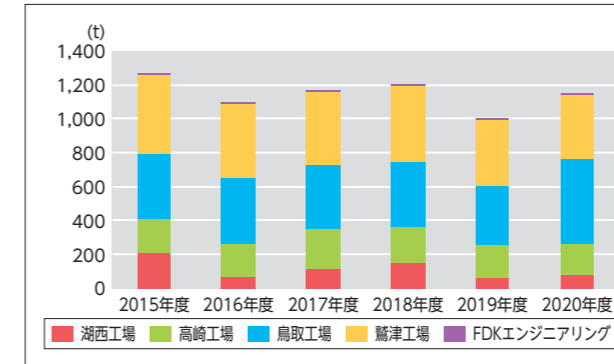
● CO₂排出量の推移(国内、国外) 2015年度~2020年度 CO₂排出量の推移(国内)



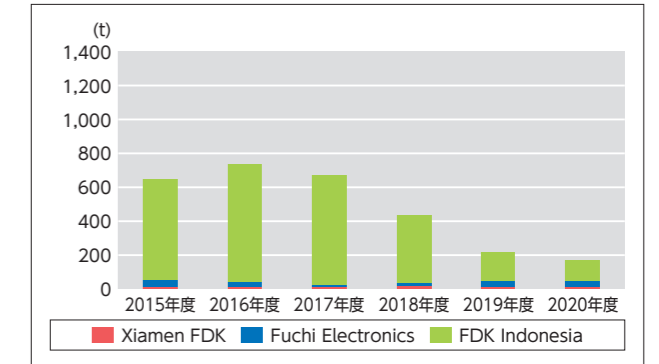
CO₂排出量の推移(海外)



● 廃棄物発生量の推移(国内、国外) 2015年度~2020年度 廃棄物発生量の推移(国内)



廃棄物発生量の推移(海外)



● 事業所別環境パフォーマンスデータ

項目	(単位)	湖西工場	高崎工場	鳥取工場	鷺津工場	FDKエンジニアリング
CO ₂ 排出量	2020年度 前年度 (t-co ₂)	4,494 4,912	14,928 14,017	12,153 12,501	4,908 4,934	137 131
水使用量	2020年度 前年度 (m ³)	68,294 82,774	22,948 22,012	63,636 67,145	41,464 44,685	433 480
PRTR対象物質排出量	2020年度 前年度 (kg)	0 0	3 0	0 171	0 0	- -
SO _x 排出量	2020年度 前年度 (kg)	- -	- -	- -	- -	- -
NO _x 排出量	2020年度 前年度 (kg)	247 344	- -	1,017 2,337	- -	- -
ばいじん(測定濃度)	2020年度 前年度 (g/Nm ³)	0.01未満 -	- -	- -	- -	- -
排水量	2020年度 前年度 (m ³)	68,294 82,774	22,314 20,977	36,442 35,589	41,464 44,802	433 480
廃棄物	2020年度 前年度 (t)	81 67	188 195	497 346	385 388	5 4

項目	(単位)	FDKエコテック	Xiamen FDK	Fuchi Electronics	FDK Indonesia
CO ₂ 排出量	2020年度 前年度 (t-co ₂)	30 27	2,495 3,016	2,638 2,686	2,144 3,446
水使用量	2020年度 前年度 (m ³)	- -	15,701 21,150	11,305 10,377	6,679 12,627
PRTR対象物質排出量	2020年度 前年度 (kg)	- -	- -	- -	- -
SO _x 排出量	2020年度 前年度 (kg)	- -	- -	- -	- -
NO _x 排出量	2020年度 前年度 (kg)	- -	- -	- -	- -
ばいじん(測定濃度)	2020年度 前年度 (g/Nm ³)	- -	- -	- -	- -
排水量	2020年度 前年度 (m ³)	- -	12,561 16,920	11,305 10,377	6,011 11,364
廃棄物	2020年度 前年度 (t)	- -	11 10	31 32	124 166

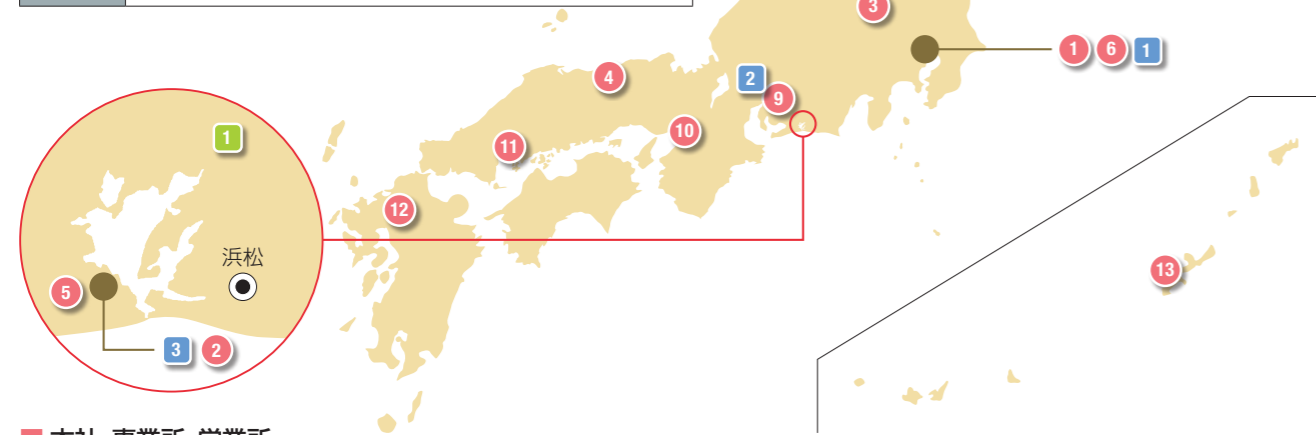
注) CO₂換算係数 0.57 (t-CO₂/Mwh)

FDK Indonesiaは2Qまで

概要、グループ会社

● 会社概要

会社名	FDK 株式会社 (FDK CORPORATION)
創立	1950年
本社	〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号芝浦クリスタル品川
資本金	31,709百万円(2021年3月31日現在)
売上高	2020年度(2020年4月1日から2021年3月31日) 連結: 61,543百万円
従業員数	連結: 2,486名(2021年3月31日現在)
事業内容	各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売
主要製品	ニッケル水素電池、アルカリ乾電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、電池製造設備、スイッチング電源、DC-DCパワーモジュール、トナー、液晶ディスプレイ用信号処理モジュール



■ 本社、事業所、営業所

本社

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 本社	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41(芝浦クリスタル品川) TEL:03-5715-7400	EC98J2005	-

事業所

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
2 湖西工場	〒431-0495 静岡県湖西市鷺津2281 TEL:053-576-2151	EC98J2005	ISO9001:4745
3 高崎工場	〒370-0071 群馬県高崎市小八木町307-2 TEL:027-361-7575	EC98J2005	ISO9001:4184927 IATF16949:370138
4 鳥取工場	〒681-0063 鳥取県岩美郡岩美町太田28 TEL:0857-73-1771	EC98J2005	ISO9001:4656683 IATF16949:376864
5 鷺津工場	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津614 TEL:053-576-2111	EC98J2005	ISO9001:JQA-0459

営業所

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
6 首都圏営業所	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41(芝浦クリスタル品川) TEL:03-5715-7436	EC98J2005	-
7 札幌営業所	〒060-0007 北海道札幌市中央区北7条西13-9-1(塚本ビル7号館4F) TEL:011-798-4699	EC98J2005	-
8 仙台営業所	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-12-1(榴岡BKテラス) TEL:022-293-5265	EC98J2005	-
9 名古屋営業所	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅5-28-1(名駅イーストビル4階) TEL:052-561-3141	EC98J2005	-
10 大阪営業所	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-29(テラスキ第2ビル) (電池営業部門) TEL:06-6350-4883 (電子営業部門) TEL:06-6350-4877	EC98J2005	-
11 広島営業所	〒732-0052 広島県広島市東区光町2-9-27(ユーベック光町ビル) TEL:082-535-1450	EC98J2005	-
12 福岡営業所	〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町1-28(いちご博多ビル) TEL:092-291-9421	EC98J2005	-
13 沖縄営業センター	〒901-2128 沖縄県浦添市伊奈武瀬1-9-6(琉球通運(株)T.C.事業部内) TEL:098-868-8685	EC98J2005	-



■ グループ会社(生産関連会社3社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 (株)FDK エンジニアリング	〒431-1302 静岡県浜松市北区細江町広岡281 TEL:053-522-5280	EC98J2005	ISO9001:JQA-QMA15241
2 XIAMEN FDK CORPORATION	No. 16, Malong Road, Huoju Garden, Huoju Hi-Tech District, Xiamen, Fujian, China TEL:+86-592-603-0576	00120E30145R4M/ 3502	ISO9001:00120Q30430R4M/3502 IATF16949:393676
3 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.	No. 355, Section 2, Nankan Road, Rutsu Shan, Tao Yuan, Taiwan TEL:+886-3-322-2124	4E9E001-03	ISO9001:2015/69024.3 IATF16949:0339560

■ グループ会社(販売会社など10社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 FDK 販売(株)	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41(芝浦クリスタル品川) TEL:03-5715-7430	EC98J2005	-
2 FDK エコテック(株) (岐阜事業所)	〒503-0322 岐阜県海津市平田町土倉字江東478 TEL:0584-66-4781	EC98J2005	-
3 FDK パートナース(株)	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津2281 TEL:053-576-3121	EC98J2005	-
4 FDK AMERICA, INC.	(Head Office) 1280 E. Arques Avenue, MS310, Sunnyvale, CA 94085, U.S.A. TEL:+1-408-746-6815 (Dallas Office) 2801 Telecom Parkway, MS C1R, Richardson, Texas 75082, U.S.A. TEL:+1-972-231-2531	-	-
5 FDK ELECTRONICS GMBH	Einsteinring 24, 85609 Aschheim/Munich, Germany TEL:+49-89-3306680-0	-	ISO9001:91110693/3
6 FDK SINGAPORE PTE. LTD.	4, Leng Kee Road, #04-08 SIS Bldg., Singapore 159088, Singapore TEL:+65-6472-2328	-	-
7 FDK HONG KONG LTD.	Suite 1607-1608A, 16/F., Tower 3, China Hong Kong City, 33 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong TEL:+852-2799-9773	-	-
8 FDK KOREA LTD.	Room.614, Suseo Hyundai Venture-vill Bldg, 10, Bamgogae-ro 1-gil, Gangnam-gu, Seoul, 06349, Republic of Korea TEL:+82-2-582-8452	-	-
9 FDK TAIWAN LTD.	8F.-4, No.57, Sec. 1, Chongqing S. Rd., Zhongzheng Dist., Taipei City 100, Taiwan TEL:+886-2-2311-5161	-	-
10 FDK (THAILAND) CO., LTD.	408/150, 35th Floor Phaholyothin Place Building, Phaholyothin Road, Khweng Samsain-nai, Khet Phayathai, Bangkok 10400 Thailand TEL:+66-2-163-4664	-	-

* ISO14001、ISO9000'sおよびTS/IATF16949など、第三者認証取得状況は、2020年3月31日現在



FDK FDK株式会社

〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号
芝浦クリスタル品川

コーポレート本部 総務人事部
TEL:03-5715-7402 FAX:03-5715-7401
E-Mail:csr@fdk.co.jp